



網代小学校閉校記念誌

海の子



熱海市立網代小学校

目 次

網代小学校の思い出			2
閉校時の校舎風景			4
校舎のうつりかわり			6
熱海市立網代小学校閉校記念に寄せて「ご挨拶」と「感謝」と「思い出」			
網代小学校の閉校に寄せて	網代小学校長	糠谷 康弘	9
いつまでも網代っ子	わかば会会長	杉坂 亮知	10
ありがとう網代小学校	前期児童会長	大川 真之輔	11
ぼくの自慢の網代小学校	後期児童会長	海野 寛太	12
網代小学校の閉校に寄せて	熱海市長	齊藤 栄	13
網代小学校閉校に寄せて	熱海市教育長	新村 茂昭	14
明日に向けて	網代連合町内会会長	加藤 正春	15
閉校に寄せて	卒業生からのメッセージ		16
	網代小の思い出(在校生)		26
網代小学校147年のあゆみ			
沿 革			50
歴代学校長			56
歴代PTA・わかば会会長			57
歴任教職員			58
卒業生・在校生名簿			62
網代幼稚園の思い出			
平成26年度～平成28年度の写真			79
幼稚園の概要・園の沿革・園歌			81



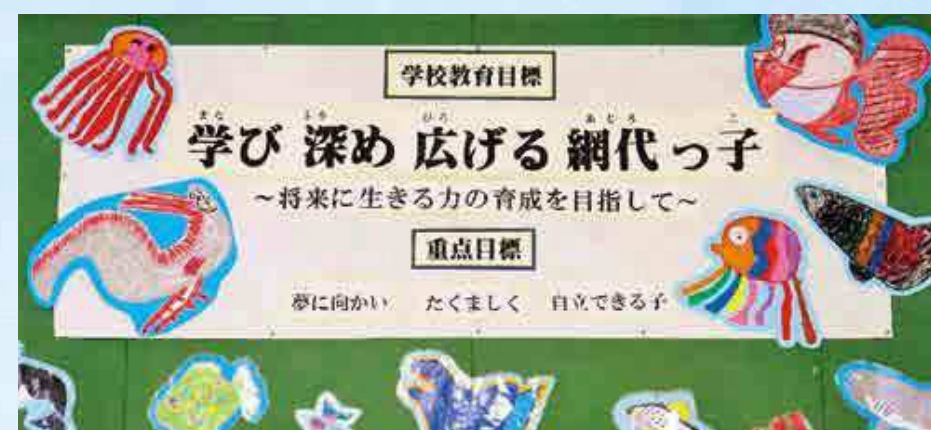
網代小学校校歌



校旗



玄関



学校教育目標

閉校時の 校舎風景

令和3年3月



外国語教室



放送室



運動場



児童玄関



図工室



家庭科室



体育館



食堂



音楽室



理科室



図書室



保健室



2・3年生教室



4・5年生教室



6年生教室



パソコン室



会議室



児童会室

校舎のうつりかわり



大正3年9月30日 洋風木造瓦葺の2階建



昭和6年4月20日 善修院畑からの一文字校舎



昭和8年8月 木造2階建18教室



昭和32年 運動会(児童数644名)



昭和37年 (88年記念)



昭和47年



昭和51年7月8日



昭和56年



昭和63年

網代小学校の閉校に寄せて

網代小学校長

糠谷 康弘



熱海市立網代小学校閉校記念に寄せて

「ご挨拶」と「感謝」と「思い出」



熱海市立網代小学校は、令和3年3月をもって、147年の歴史に幕を閉じることになりました。本校は、明治6年に熱海小学校網代分校として、網代村永国寺を借受けて授業を開始しました。その後、時代の進展に即応した校名、また施設の拡張移転など幾多の変遷を経て、多くの輝かしい足跡を校史に刻みつつ、今日に至りました。

私が、赴任して間もなく公民館でわかば会（PTA）主催の手作りの歓送迎会を開催していただきました。その時、こんなにもアットホームで盛大に教職員を見送り、そして迎えていただける地域は、他にはないと実感しました。

網代っ子は、皆とても明るく元気いっぱい、誰とでも分け隔てなく仲良くすることができます。そして、勉強や運動に前向きに精一杯がんばることができるのが、最大の強みだと思います。特に、毎年、6年生の子どもたちは、さまざまな活動や行事で最上級生として下級生をひっぱり、気持ちよく、学校を盛り上げてくれました。

そんな子どもたちをいつも温かく見守っていただいたのが、地域の皆様でした。一年間を通じて、毎朝、子どもたちの登校の様子を見守ってくださった自治会役員の皆様、6月には、龍神祭の時に全校児童に綿菓子や焼きそば、おでんをふるまっていただきました。富士宮市立山宮小学校との山宮交歓会では、網代漁業会社さんの船に乗せていただき、海釣りをさせていただきました。さらに、藤長商店さんで干物づくり体験、善修院さんで座禅体験、民宿とみよしさんでは、お風呂と朝食をいただきました。まさに、地域をあげてのおもてなしが、歴史ある行事の支えとなりました。また、年末には公民館でお餅つきをさせていただき、たくさんのお餅を子どもたちにふるまっていただきました。社会科見学や防災学習なども子どもたちのためならいつも快く受け入れてくださいました。こんなにも子どもたちや小学校のために何でも気持ちよく引き受けてくださる温かな地域はないと思います。

明治23年に制定された校章の三枚の葉は、菊の若葉であり若葉のごとく子どもの成長を願う気持ちとPTAの「わかば会」という名称を表し、丸の中のくだけた波は、網代の海を象徴しています。

校章のごとく地域の皆様には、子どもたちの健やかな成長を温かく見守っていただき、わかば会の皆様には、子どもたちと学校の応援団としてどんな時でも変わらぬご支援をいただきました。

今年度は、学校教育目標「学び 深め 広げる 網代っ子」、重点目標「夢に向かいたくましく 自立できる子」を合言葉に児童・職員一丸となって取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために3か月間の休校、修学旅行をはじめとする多くの学校行事が中止となりましたが、それにめげることなく、毎日明るく元気よく過ごそうとする子どもたちから、私たち職員はたくさんの元気をもらいました。

伝統ある網代小学校は閉校となりますが、子どもたちには、統合後も、網代っ子としての誇りを持ち、多賀小学校の仲間との友情を深め、互いに切磋琢磨して成長していくことを心より願っています。

結びに今日まで、網代小学校を支えてくださいました多くの皆様に心より感謝申し上げますと共に、この記念誌の発刊にあたり、ご協力をいただいた網代小学校歴代の卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。

網代小学校の最後の校長として務めさせていただいたことに深く感謝いたしまして閉校に寄せての挨拶いたします。



わかば会 会長

杉坂 亮 知



静岡県熱海市立網代小学校の閉校を迎えるにあたり、わかば会を代表致しましてご挨拶をさせていただきます。
網代中学校が15年前に閉校し、網代小学校はどうか残そうと網代連合町内会をはじめ、地域住民の方とPTAが町全体で網代小の子供達や先生方をサポートし、児童増加を目指しましたが、少子化の影響により児童の減少に歯止めがきかず、令和3年3月をもって閉校するはこびとなりました。この日を迎えるまでに網代小存続に携わっていただいた方々にはとても感謝いたします。

現PTAわかば会は閉校の話を受けた時、言葉を失うほどの動揺をうけました。それから保護者全員で何度も会合を開き意見を交わしあい、全ては子供達のためと心に言い聞かせたどりついた結果、閉校を受け入れようという事になりました。

子供達も不安な気持ちはありますが、前向きな姿勢で受け入れてくれました。新しい環境で生活していく中で早くとけ込み“網代っ子”らしい子供でいて欲しいと思います。

海、山に囲まれた自然豊かな環境の中で多くの人々に愛され続けてきた幼稚園、小学校、中学校すべてが無くなってしまふ事の淋しさは隠しきれませんが、母校への思いや誇りは世代に関係なく、皆さんが持っているものだと思います。

終わりに、最後のPTA会長としての私を支えて下さった会員の皆様、校長先生を始めとする先生方、地域の皆様そして網代小学校。本当にありがとうございました。

これからの未来、日本各地に子供が増え再び学校を作ろうという動きがおこり、網代にも小学校を復活しようとなる事を私は期待しています。



運動会の写真

令和2年度 前期児童会長

大川 真之輔



ぼくが大好きな網代小学校には良いところがたくさんあります。今日はその中から5つを紹介したいと思います。まず1つ目は、なんと言っても、みんなが協力できることです。人数は少ないけれど、その分みんな一人一人が何事にも一生懸命で、どんなことにも全力で協力してくれます。ぼくは6年生で応援団長をやってみて本当にそう思いました。2つ目は、全校の仲が良いことです。みんな仲が良いので昼休みなどでも全校のみんなで遊びます。だれかが転んでケガをすると、みんなが心配して集まってきてくれます。3つ目は何事にも全力をつくせることです。ドッジボール大会やサッカー大会などでも、みんなで全力で練習をして良い結果を残しています。4つ目は、みんなが元気なところです。外に出てしっかりと大きな声であいさつをして、暑い時も寒い時もしっかり外遊びをしています。5つ目はドッジボールラリーが強いことです。県の体力アップコンテストで毎年1位2位を争うほどです。この毎年の強さはやっぱりみんなで一生懸命練習しているからだと思います。コンテストの締め切り近くになると、中休みも昼休みも使って必死に練習しているのが強さの理由だと思います。

ぼくはこの自慢の網代小学校を卒業できることを誇りに思います。閉校してもこの学校の思い出を一生忘れません。ありがとう網代小学校!!この学校に入学できて本当に良かったです。



ぼくの自慢の網代小学校

令和2年度 後期児童会長

海野寛太



ぼくが思う網代小学校の良いところは4つあります。本当はもっとたくさんあるけれど、書ききれないので4つにします。まず1つ目は、いろいろな行事があることです。中でも、海の子大集会や山宮交歓会、仲良しタイムは網代小ならではの行事だと思います。海の子大集会は総合学習で調べてまとめたものを発表します。仲良しタイムは自分達で遊びやルールを決めて遊ぶことのできる行事です。山宮交歓会は長年続いた海の町と山の町の交流行事でとっても楽しかったです。2つ目はみんなが仲が良いことです。クラスだけでなく全校が仲が良いので、昼休みなどはサッカーやドッジボールをみんなでやって楽しんでいます。3つ目はみんなが優しいことです。低学年が困っていたら助けるのは当たり前、友達が忙しそうだったらみんなすぐに助けます。4つ目は、ドッジボールやドッジボールラリーが強いことです。県の体力アップコンテストの種目のひとつ、ドッジボールラリーに1年生から6年生まで参加していて、毎年1位や2位を取っています。また、熱海のドッジボール大会では、大きな学校も参加するけど、6年間で2回優勝しています。

ぼくはこの自慢の網代小学校で、友情や勉強、思いやりの心など、たくさんのことを学びました。6年間いろいろなことを教えてくれた網代小学校に感謝したいです。網代小学校はなくなるけれど、ここで学んだことと網代の仲間はずっとずっとぼくの心にあり続けると思います。



網代小学校の閉校に寄せて

熱海市長

齊藤 栄



海と山に囲まれ、豊かな自然環境に恵まれたこの地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた網代小学校は、明治6年10月に熱海学校網代分校として創立され、明治8年10月に網代学校として独立した147年もの歴史がある学校であります。

そして、この恵まれた環境により、子どもたちは多くの行事や活動を通して、一人ひとりの能力や個性を伸ばすとともに、夢を持ち、たくましく生きる子どもに育ってまいりました。これもひとえに、歴代の校長先生や教職員の皆様方の教育に対する熱意とご努力、そして、PTAや地域の皆様方のご支援による賜物であると、あらためて感謝と敬意を申し上げる次第です。

一人ひとりの良さが輝き、心身ともに健康な児童の育成に努めてきた網代小学校であります。近年の少子化や社会構造の変化等により、児童・生徒数が減少していくなか、平成16年からは熱海市唯一の小規模特認校として、市内全域からの児童の入学・転学が可能となり、特色のある授業カリキュラムを展開していただきました。しかしながら、集団生活から得られる多様な価値観を育成することや、一定の競争力を身に付けることなど、より良い児童の教育環境を整備していくため、「学校施設の適正規模・適正配置計画」に基づき、網代小学校は多賀小学校との統合が決定し、令和3年3月をもって147年の歴史に幕を下ろすこととなりました。

これまで網代小学校を見守り、育てていただいた関係者の皆様にとりまして、平成18年の網代中学校の閉校につき、網代幼稚園とともに網代小学校が閉校となることは、大変寂しくお感じになると思います。しかしながら、未来を担う子どもたちの将来を最優先に考えた判断であるのご理解をいただき、さらに教育環境の充実が図られていくよう温かいご支援をいただければと存じます。

統合後は、網代地区の児童は多賀小学校に通学することとなりますが、これまで皆様方が長年にわたり築きあげられた歴史と伝統を継承しつつ、多賀小学校において、新しい仲間と、新しく輝かしい歴史を創りあげていただけることを強く期待しております。

結びとなりますが、網代小学校を支えていただきました保護者の皆様をはじめとする関係者の方々に改めて感謝を申し上げますとともに、網代小学校がこれまで育んできた歴史が長く受け継がれ、これからの新しい地域の歴史が築かれていくことを心よりご祈念申し上げまして、閉校記念誌発刊のご挨拶とさせていただきます。

網代小学校閉校に寄せて

熱海市教育長

新村 茂 昭



昭和30年代の後半、私は網代幼稚園に通っていました。当時はウメ組とユリ組があり、私はウメ組でした。バス通りから階段を上がると、右側にジャングルジムや滑り台などの遊具があり、その向こうに園舎、園舎の向こうに小学校の校舎があった時代です。

片町にはたくさんの干物屋さんが並び、ウマズラハギのみりん干しをおやつに食べていたという記憶を、この記念誌の投稿にあたり呼び起こしているところです。

網代小学校は、1873年に熱海分校として創立し、網代校、網代尋常小学校、網代尋常高等小学校、網代町国民学校を経て、1957年熱海市立網代小学校となり今日に至りました。140有余年の歴史と伝統を誇る小学校です。

このように県下でも有数の伝統校である網代小学校の統合は、誠に残念ではございます。しかしながら、成長していく過程で今後直面する様々な課題に、子どもたちが自分の良さを発揮しながら乗り越えていく力を獲得すること、地域や日本や世界のために活躍する人材として成長することを願ってやみません。そのために必要な基礎を培う環境構成は必要なものであると思っています。

2020年から完全実施されました学習指導要領の趣旨に鑑み、変化の激しい時代の中で生き抜く力を獲得することが求められています。そのためには、多様な考えにふれたり、協調して物事を進めていく力を育成したりしていくことが重要です。そして、集団の中で、自分や他者の良さを再確認し、その自覚に基づいて、自分の良さや、可能性を伸ばしてしていくには、一定程度の人数の中で学習していく環境を整えることはとても大切です。

網代小学校では、新緑や紅葉を望める山々や、きらきらと輝く海と空の青さに囲まれた自然豊かな環境のもと、明るく素直で元気な子を育成するために、これまで保護者の皆様や地域の皆様、教職員が力を合わせて取り組んでくださいました。

網代小学校にお子様を通わせていた保護者の皆様、共に学び巣立っていった卒業生のみなさん、在校生のみなさん、地域の皆様、そして教育に全身全霊をかけてこられました歴代の校長をはじめすべての教職員に心から感謝申し上げます。

このたびの統合は、卒業生や地域の皆様にとりましては、とても寂しい気持ちでおられますこととお察し申し上げます。しかしながら、ここで培われました確かな成長と思い出は、卒業生の中に残っていくものと信じております。

今後は、新たな教育環境や教育理念の融合のもと、さらに充実した学校教育を目指してまいります。地域の皆様、卒業生のみなさん並びに網代小学校にかかわってこられたすべての皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

2021年3月

明日に向けて

網代連合町内会 会長

加藤 正 春



平成18年3月網代中学校が閉校されました。その閉校式の挨拶の中で、当時の市長様が、中学校はなくなりますが小学校についてはどんな事があっても残していきますとはっきりと言われた事が思い浮かびます。しかしあまりにも少子化の波が激しく押し寄せ、今日に至っては誠に残念ではありますが、この現実を受け止めなければなりません。今後は4月より多賀小に通う子供達が安心して勇んで登校出来るよう地域として皆々で見守っていかねばと思っています。

町から学校がなくなると急速に過疎化が進むと言われています。そして今後何より地域として大きな課題は小学校跡地有効利用の問題であります。高齢化が進む中で、避難場所として、高齢者の憩いと安らぎの場所として、また子供達の学習や遊びの場所として活用出来るよう広く住民の声に耳をかたむけて頂き、子供達が網代から通って良かった、お年寄が網代に住んでいて良かったと言って頂けるよう安心安全の町づくりのために有効に利用出来ますよう、市長様始め関係者の方々の御尽力を賜りますよう心より願って閉校の挨拶とさせていただきます。



昭和32年 2年1組 深川先生と

網代小の閉校時に思う事

網代小学校 昭和29年度卒業生

土屋満男

私の在校中の生徒数は640人で、二階建の木造校舎は常に超満員。運動会は生徒と住民の応援と見物人で大変な混雑でした。戦後の食糧難と、娯楽の無い時代、運動会は町の一大行事でした。人口は5,000人弱、その時代を知る者として、閉校の運動会が17名とは……改めて時代の変遷を思い、言葉も有りません。

経済は漁業一本で衰退、金融機関の撤退、町役場の消滅、小学校の多賀地区への統合等、全て右肩下がり、しかし勿らここまで落ち込んだ網代、今後の町の来し方、行く末を思えば、網代の将来像を画かなくては……。

幸い網代は海の藍、山の緑、空の碧と、三つの青に囲まれ、しかも天与の温泉まで有り、風光明媚な別天地が有ります。近い将来、人口1,000人足らずとなりますが、人口減が網代にとって逆に見直される時が必ず来ると、私は思います。地元の先人の言葉に京、大阪、江戸、網代の言葉が残されているでは有りませんか……。



小学1年時

同級生と記憶を掘り起こす

網代小学校 昭和36年度卒業生

藤井茂子

一力さん側に桜の木が何本も植えてあったよ。満開の時はすごくきれいだったなあ。

昼休みは運動場いっぱいみんなが走り回っていたね。下駄の子もいたね。運動会の跳びっこ(徒競走)の時には裸足だった。全校で600人以上いたかなあ。中庭でも追いかけてこや兔の世話をする子どももいたよ。町も私たちもみんな元気だった。

熱海市で初めての給食が始まったのは3年生の時かな。視察の人たちが大勢来て、気恥ずかしかったよ。脱脂粉乳は不評だったけど、鯨の竜田揚げはうまかったなあ。あの頃の網代には肉屋がなかったからね。

2年生の時、クラスで飼っていた兎が赤ちゃんを産んだけど、母兎が赤ちゃんを食べちゃったよって、先生から聞いた。みんなで大泣きしたことがあったね。

理科室の骨格標本は怖かった。本物の骸骨だと思っていたよ。そんなことないのにね。

網代小には金次郎像がなかった。戦時中に供出したんだって。88周年記念で、金次郎の台座の上に「希望の像」が作られたんだよ。6年生の卒業間近の時だったなあ。

そういえば、校長室にあった古い西洋人形は不気味だったね。戦前の日米親善の貴重な人形だってことを知ったのは最近のことだよ。熱海市では網代小だけに寄贈されたんだって。

掘り起こされた記憶は次の記憶を掘り起こす。



小学校5年生 運動会

小学校の思い出

網代小学校 昭和41年度卒業生

渡辺 徹

本年度で網代小学校が閉校になると聞き、中学校に続き母校が無くなるのはこんなに寂しいことはないと思います。網代の人口も少子高齢化で、いつかはこの日がくるとは推測しておりました。私達は昭和36年入学で2クラス75人位だったと記憶しています。卒業後半世紀が経つ中で一番に浮かんでくるのは、昼休みに中庭で遊んでいた時、流れてきた音楽で歌詞が「サボテンの花咲いてる、砂と岩の西部」という歌で、何故か今でも口づさむ時があり、当時の情景が浮んできます。中庭には花壇、温室、池や飼育小屋があり、ニワトリ、アヒル、うさぎや山羊など飼育し世話をしたこともありました。校舎内で強烈な印象に残っていたのは標本室^{サブロー}で常にカーテンが閉っていて薄暗く、人体骸骨の模型が置いてあり網代で採れた珍しい魚などホルマリン漬けにされたビンが並び独特の臭いが漂っていた怖いイメージの教室で多分低学年時代の思い出だったと思います。思い出アルバムを開いてみると、羽田空港への修学旅行、鎌倉の大仏、鶴ヶ岡八幡宮、江の島水族館、白糸の滝や山宮林間学校、その時々色々な思い出が走馬灯のように脳裏を駆け巡っていきます。お世話になった先生方のことなど限られたページに書ききれませんが、今でも同級生仲間^{サブロー}で三六会という会を作り親睦を図っています。

147年の歴史に幕を閉じますが、これからは地域、コミュニティで再利用について考え、閉校転じて福となる方法が見つかることを期待致します。



昭和41年度卒業記念

網代小学校の思い出

網代小学校 昭和41年度卒業生

田村 伊都子

この度ご依頼を頂き、小学校時代を思い起こす事が出来た事大変嬉しく思います。同時に140年余り続いた網代小学校の歴史に敬意を表します。

私達は創立88周年に当る昭和36年度に2クラス70人前後で入学しました。

網代小のシンボルとして少年がさっそうと大魚に跨る「希望の像」の除幕式にも参加させて頂きました。

6年間の有数行事の中でも山宮交歓会は印象深いものでした。還暦祝いの同窓会で再び山宮の方々との交流会が実現しました。

学校生活に慣れてきた3～4年時の担任は詩吟の上手な高坂真一先生。体格が良く力持ち。休み時間になると先生の両腕に群がる児童達。男女隔たりなく毎日沢山遊んだ時期でした。

5～6年生は山田叶先生。常に児童に寄り添い、とても実行力が有りました。当時のグラウンド沿に廃棄タイヤを埋め運動器具を作った事。大柱を削り顔を掘りペンキを塗り、中庭のトーテムポールを建てた事。これが私達の卒業記念でした。

新校舎が建てられ、二人の子供も網代小に足跡を残せた事。

思い出は尽きません…。



小学校卒業式 中学の制服で記念スナップ



小学校5年生 遊具古タイヤの前で

網代小学校の思い出

網代小学校 昭和51年度卒業生

長谷川 努

旧校舎での最後の卒業生だった私達の代はコの字型の校舎の二階にあった図書室を家庭科室の仕切り壁をぶち抜いた部屋で卒業式を行った。当時は、グラウンドに新校舎(現在の校舎)を建設中だったので、あまり外では遊べなかったと記憶しているが、卒業記念として現在の食堂の中にある魚のレリーフを同級生と作った事は、良い思い出となった。

その他に思い出されるのは、大きなグラウンドでの手つなぎ鬼や鼓笛隊、創立百年祭のパレード、講堂の壁をスクリーンにした映画上映会、校舎に残った機銃掃射の跡、ユウイチロウの怪談、長く続いた山宮小学校との交歓会など、語り出したらきりが無い。

私の子供達も網代小学校に通い卒業した。人数こそ少なかったが楽しい日々を過ごした事でしょう。今まで長い間網代っ子を育ててくれた母校に最大限の感謝です。ありがとう!



小学校の思い出

網代小学校 昭和51年度卒業生

佐田 明実

昭和8年に落成したその校舎は、コの字型の木造2階建て、右手前に講堂がありました。私達は、旧校舎での最後の卒業生です。昭和52年3月、卒業式を行うはずの講堂は、すでに取り壊されていたため、2階海側の図書室と被服室の壁を抜いての式典だった、と記憶しています。あれから44年、思い出すのは他愛もない毎日です。玄関に敷かれたスノコ板の上を飛び跳ねると、響く「ばしゃーん」という音。子供達の手の脂で毎日磨かれ、ツヤツヤのすべすべだった階段の手すりの感触。半泣きの顔で「給食残してごめんなさい」と言いながら、調理師さんに食器を返す時のトレーの冷たさ。いつまでも忘れられません。

私達には、小学校を一緒に卒業できなかった『友』がいます。旧校舎の姿は無くとも、閉校となっても、彼女はいつまでも『ともだち』であり続けます。縁あって、人生の後半を生まれ育った網代で過ごす事になり、幼馴染と母校の思い出を語りあえる幸せを改めて感じています。最後になりましたが、網代小学校の歴史を支えてこられた先生方、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。



小学校 中庭



昭和51年7月 思い出の旧校舎



昭和51年度卒業生 6年1組



昭和51年度卒業生 6年2組

網代小と共に過ごした日々

網代小学校 平成2年度卒業生

海野裕美

時代が昭和から平成に移り変わる頃、私は網代小学校で6年間を過ごしました。

当時から全学年1クラス、クラス替えのないまま、ほぼ同じ顔触れで過ごす毎日でした。それでも、30人近くいる教室は賑やかで、いつもと変わらない仲間の笑い声が響く教室は、私にとって安心できる大好きな場所でした。

朝の運動で毎日走ったグラウンド。氷の張るような寒い冬の朝でも半袖の体操着で、凍えながら走った事を思い出します。

今では半分の広さで間に合う食堂も、当時の縦割り給食では全校児童が一同に集まると、広い食堂が満員でした。

時代は令和へと変わり、我が子が入学してから、父兄として再び校舎へと足を運ぶ事となった今でも、あの頃と変わらないグラウンドの景色、魚の壁の食堂、笑い声の響く教室。思い出を辿りながら、我が子と共に過ごす網代小の日々もまた、かけがえのないものとなりました。

閉校は寂しく残念ですが、地域の核として大きな役割を担ってきた網代小学校は、これからも多くの人々の心の中に永遠に生き続ける事だと思います。

網代小を最後に巣立って行く17名の子供達が「明るく清く健やかに」広い世界へ、どうか大きく羽ばたいていけますように。心から願っています。



6年時 社会科見学 国会議事堂前にて

網代の絆

網代小学校 平成9年度卒業生

平井辰忠

私が網代小学校を卒業したのは、もう20年以上も前のことです。当時、全校生徒は100名に満たない程の数だったと思います。

海と山に囲まれた自然豊かな街の小学校、生徒数は少なくとも皆が皆のことを良く知り、学年分け隔てなく仲の良い小学校。そんな小学校で私は6年間過ごしました。

放課後のクラブ活動。私は自然観察クラブでした。釣り竿片手に海まで行き、沢山の魚を釣って楽しみました。今思えば、他の小学校ではきっと真似できない、海が近くにある網代小学校ならではのクラブ活動だったと思います。

給食も楽しみでした。毎朝、今日の献立をチェックし登校していました。大好きな献立の日は朝からワクワクしていましたが、椎茸嫌いな私は、椎茸が献立で出る日だけは毎回居残り給食をしていました。早く食べ終わった生徒が、おかわり給食を取り合っていたことも良い思い出です。

学校が終わってからもグラウンドで良く遊んでいました。一度家に帰り、荷物を置いてまたグラウンドへ集合し夕方16時半のチャイムが鳴るまで遊ぶというのがお決まりでした。家から数分のところにグラウンドがあるので、当時の私たちにとっては良い溜まり場だったのでしょう。

まだまだ、思い返せばたくさん思い出は蘇ってくると思いますが、網代小学校で過ごした6年間は本当に貴重な時間だったと思います。また、共に一緒の時間を過ごした同級生をはじめ、先輩や後輩、先生方のおかげで今の私があると感じています。勉学以外にも本当に大切なことを教わった6年間でした。

この度、網代小学校が閉校すると聞きとても寂しく残念な気持ちでいっぱいですが、このたくさんの思い出や先生方の教え、仲間との絆は、これから先もずっと消えることなく、私の中で輝き続けるでしょう。



少年自然の家にて

思い出

網代小学校 平成13年度卒業生

森野 智衣

わたしには5つ上の姉がいる。わたしが1年生で姉が6年生。姉にも、姉の友達にもよく可愛がってもらっていたが、当時のわたしは人見知りでお世辞にも愛想がいいとはいえない子どもだったと思う。

「縦割り給食」が緊張の時間だった。姉の親友が同じテーブルだった事が唯一の救い。安心だった。苦手な給食を何も言わずとも減らしてもらっていた。

網代の良いところは、誰かが自分のことを知っていてくれるという安心感だと思う。少しの息苦しさも鬱陶しさふくめて。人見知りだったわたしもちゃんと大人になれた。姪っ子が網代小に入学する時は嬉しかった。同級生がいなくても1人でも良いと言っていた。今も楽しんで通っているようだ。まだまだ子どもだと思っていたけれど、この子もちゃんと育っている。大丈夫。学校がなくなってもきっと大丈夫。



入学式の写真

ありがとう。わたしたちの母校

網代小学校 平成22年度卒業生

中村 実花子

わたしが網代小学校に通い一番に感じたことは生徒の少なさです。

少ないからこそ、全校生徒の名前が分かるのは勿論、グループ活動やクラブ活動を通して一緒に過ごす時間がたくさんありました。全校生徒の前で発言する機会も多くありました。幼稚園、小学校の合同運動会等もあり、自分よりも歳の離れた人たちとも仲良く生活することができました。そのような学校生活を6年間送ってきたからこそ、中学生になり生徒の人数が増えることに不安を感じていた時期もありましたが、すぐに信頼できる友達を作ることができました。また22歳になった今でさえ、人の前に立って発言することを苦に感じることはなく、人と関わるのが好きでいられるのだと思います。

わたしにとって網代小学校は、人との関わり方を覚えた場所です。廃校になってしまっても色々な思い出のある母校を忘れません。



熱海市立網代小学校修学旅行 国会議事堂 平成22年11月11日

2・3年



一番のお思い出は
みんなと少しづつ
お話ができたこと
です。最後まであり
がとうございます。

高木 色

最後の思い出は、
毎朝先生の勉強
の姿を見ることが
できて、とても
良かったです。

神田 結菜

最後の思い出は、
運動会で3年間
優勝したこと。な
か網代小学校いま
までありがとうございます。

多比 乙葉

わたしの一番の思い出は、
みんなと協力してのこ
に金かき取り競争で
優勝したこと。網代小
の思い出です。いま
までありがとうございます。

小野寺陽葵

毎日みんなと
いろいろな活動
をする中で、先生
の元気をもらいま
す。今までありがとう。

志賀口環吾

最後の思い出は、
運動会で大活躍
できたこと。いま
までありがとうございます。
心に残ります。網代小
学校を一生懸命に
頑張ります。

海野 日鞠

この5年間、先生
のおかげで、自然
が大好きな網代小
学校で、一生懸命
頑張りました。

多比 慧人

最後の思い出は、
運動会での活躍
です。先生とみんな
のおかげです。いま
までありがとうございます。

千葉 鴻睦

最後の思い出は、
運動会での活躍
です。先生とみんな
のおかげです。いま
までありがとうございます。

海野 日鞠

この5年間、先生
のおかげで、自然
が大好きな網代小
学校で、一生懸命
頑張りました。

多比 慧人

最後の思い出は、
運動会での活躍
です。先生とみんな
のおかげです。いま
までありがとうございます。

千葉 鴻睦

網代小の 思い出

6年



私は入学式では、
緊張していましたが、
成長することができ
ました。網代小学校
は最高の学校です。
本当にありがとう。

海野 寛太

網代小の6年間は、
最高の6年間
でした。みんなと
楽しかったです。
本当にありがとう。
網代小に感謝
しています。

大川真之輔

網代小のみんなと
過ごした6年間は
最高の思い出です。
いつまでも忘れ
ないです。いま
までありがとうございます。

杉坂 侑士

私は2年間の網代
小学校が、とても
楽しかったです。
網代小学校は一生
忘れません。

福井 奏介

網代は人数が少
ないけれど、みんな
と楽しく過ごせる
のが、いいです。

藤間 裕生

私にとっての網代
の思い出は、日本
に来たこと、みんな
と過ごしたことです。
網代小学校は、
本当にありがとう。

ヘリヤー紗羅

網代小学校での
思い出は、仲間の
思い出です。いま
までありがとうございます。
網代小学校は、
本当にありがとう。

ヘリヤー理紗

あじろ小の思い出
は、仲間の思い出
です。みんなと
過ごしたことが、
とても思い出です。
本当にありがとう。

谷澤魔沙斗

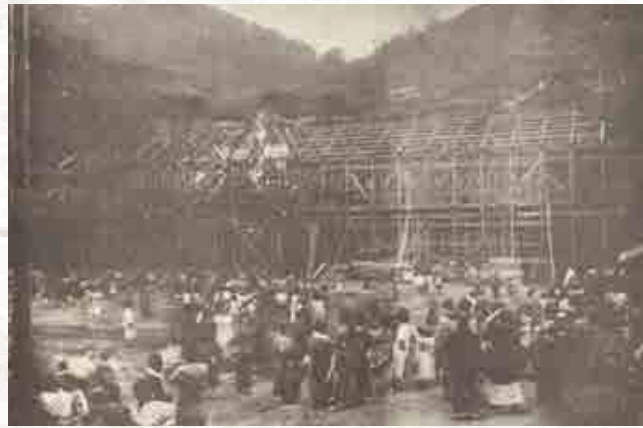
私は、網代小学校
で過ごした6年
間は、最高の思い出
です。みんなと
過ごしたことが、
とても思い出です。
本当にありがとう。

吉田 雛乃

網代小学校 147年のあゆみ



網代町制施行当時（大正13年）の小学校



現校舎（昭和8年）の上棟式



栄国寺について



教職員（明治44年3月）



尋常科卒業生（明治44年3月）



尋常科卒業生（明治44年3月）



高等科卒業生（明治44年3月）



尋常科卒業生（大正9年3月）



教職員（大正11年）



高等科卒業生（大正12年）



庭球愛好者（大正13年頃）



卒業生（昭和3年3月）



バレー優勝記念（昭和5年）



卒業生（昭和7年3月）



バレー部（昭和15年）



運動会（昭和16年）



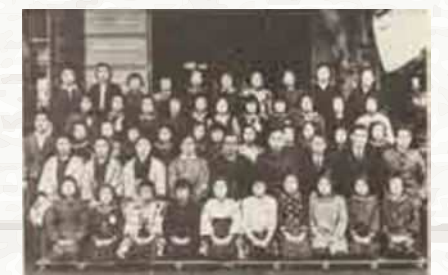
海洋少年団入団式（昭和16年）



卒業生（昭和17年3月）



忠魂碑前にて（昭和18年）



卒業生（昭和22年3月）

昭和20年代～昭和30年代



昭和20年3月17日 幼稚園



昭和20年代 初等科第2学年



昭和26年度 卒業生



昭和27年頃



昭和22年 2年生



昭和23年 3年生



昭和27年頃



小学校運動会



昭和24年 4年生



昭和25年 5年生



バス旅行5年生 三保の松原



昭和29年頃 5・6年生

昭和30年代



昭和30年頃 5年生



昭和30年代 運動会 ポール叩き



昭和34年3月



昭和35年5月5日



昭和30年代 運動会 玉入れ



昭和30年代 運動会 フォークダンス



昭和35年5月12日



昭和35年



昭和30年代 スプーン競争



昭和32年 第4回 田貫湖 富士山の麗姿



昭和35年度 卒業記念



昭和37年 山宮林間学校

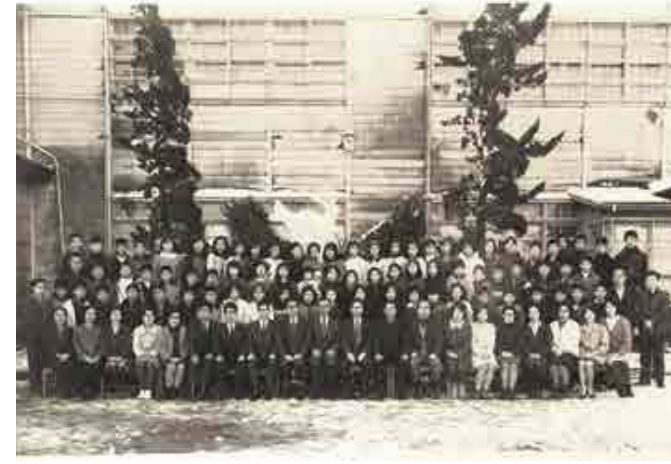
昭和30年代～昭和40年代



昭和30年代



昭和38年 山宮にて



昭和41年度 卒業記念



昭和42年11月1日 県音楽研究発表会



昭和38年 白糸の滝



昭和39年度 卒業記念



昭和43年度入学記念



昭和43年度 卒業記念



昭和40年11月5日 県音楽研究発表会



昭和41年3月20日 お別れ



昭和44年度 入学記念



昭和46年 山宮

昭和40年代～昭和50年代



昭和46年度 卒業記念



昭和46年度 卒業記念



昭和48年 小学校にて集合スナップ



昭和48年度 卒業写真



昭和46年 集合写真



昭和47年 遠足集合写真



昭和48年度 卒業写真



昭和49年 遠足集合スナップ



昭和48年 小学校百周年パレード



昭和48年 小学校百周年パレード



昭和50年度 卒業 6年1組



昭和50年度 卒業 6年2組

昭和50年代



昭和52年9月 新校舎落成記念



昭和52年10月31日 音楽発表会 於 熱海観光会館



昭和53年4月5日 入学記念 1年2組



昭和54年度 卒業記念



昭和52年 花鳥山脈



昭和52年 飯ごう炊飯



昭和55年度 卒業記念



昭和56年度 入学記念



昭和52年 6年1組 白糸の滝にて



昭和53年4月5日 入学記念 1年1組



昭和56年度 熱海市立小中学校 音楽発表会 10月29日 於 観光会館ホール



昭和56年度 卒業記念

昭和50年代～平成元年代



昭和58年度 卒業記念 6年1組



昭和58年度 卒業記念 6年2組



平成4年 網代山宮交歓会



平成4年度 卒業証書授与式 平成5年3月18日



昭和61年度 入学記念 昭和61年4月7日



昭和61年度 卒業記念 昭和62年3月19日



平成5年 3年生



平成5年度 6年生



平成2年度 卒業記念 平成3年3月19日 担任 高原米子先生



平成3年度 入学記念 担任 鈴木智子先生



平成6年度 入学記念 平成6年4月6日



平成8年度 入学記念 平成8年4月5日

平成元年代～平成20年代



平成9年 リトルワールド



平成11年度 入学記念 平成11年4月6日



平成15年 網代魚市場



平成22年7月14日



平成15年 山宮へ



平成15年 熱海サンビーチ



平成23年2月14日



平成25年3月18日



平成15年 富士山へ



平成15年 富士山へ



平成25年7月4日



平成25年 山宮・網代交歓会60周年記念

平成20年代～令和元年代



平成25年11月6日 修学旅行 東京スカイツリーにて



平成26年 白糸の滝にて



平成29年 海釣り体験(網代港)



平成30年 朝霧野外活動センターにて



平成26年10月5日 修学旅行 国会議事堂にて



平成27年11月5日 修学旅行 羽田機体整備工場にて



平成30年11月9日 修学旅行 スカイミュージアムにて



令和元年 善修院にて



平成28年11月17日 修学旅行 上野公園にて



平成29年11月2日 修学旅行 浅草寺にて



令和元年11月8日 修学旅行 国会議事堂にて



令和元年 網代の町めぐり



市内音楽発表会



朝運動



遠足



メリーちゃん・タミーちゃん



ドッジボール大会



みかん狩り



私たちは
網代小学校を
忘れません。



山宮交歓会



地域伝統学習





私たちは網代小学校を忘れません。

—— 令和2年度 網代小学校 最後の運動会 ——



沿革

明治6年　9月18日

足柄県権令柏木忠俊より、学校設立の允許を受ける

明治6年　10月19日

熱海学校分校として、村内の永国寺を借受け授業を開始する　就学生徒約80名
網代村々社祠掌（神宮）高杉光枝　永国寺住職荒見来道両氏、村費を以て40日間の講習を受け、授業生となり授業にあたる
その後、両氏より長延寺住職白沢日正、法印三橋周達両氏へ授業法を伝習し、4氏が授業に従事する
（沿革誌より）校舎は創立当時、次に塩焚場（しおたきば）を仮用す　皆木造の平家にしてすこぶる狭隘なり、その後、教安寺の仮教場は木造草葺なるも天井高く、床また高く、空気清潔眺望よろしく、衛生上適好せりといえども位置高きに過ぎ、通路険しく生徒の通学甚だ困難にして風雨の日の如きは昇降すこぶる危険なりき
本校は初め網代分校と称せしが、塩焚場に移転せしより村民は塩焚学校と呼べり、後本村の東南にそびえる臼月が峰の山名を取り臼月舎（きゅうげつしゃ）と称す
その後、一般に学校名の上に学区を記する制となりしより、「第1大学区足柄県管内第30番中学区賀茂郡網代村第79番小学臼月舎」と称す

明治6年から12年頃までの教員

前記4氏及び三島の人村川某、出羽の人小池義論、山本覚城、東京の人千種顕信、善修院住職鳳是参、安養寺住職杉本法忍、一行寺住職西本林光、本村の人衣笠甚六、南条村の人芹沢哲之、下多賀村の人河口久良司等の諸氏

明治8年　3月

校舎新築一校地面積262坪、校舎65坪
（沿革誌より）間口12間半、奥行4間半、前通りに3尺余りの下家を出し左側の前面には巾2間半長さ3間半の袖を出す、皆木造板葺の平家なり・・・校堂は之を4教室に分画し、左方袖の処を画して教員室に充つ
この建築は大工請負及板木代を除き、釘代金と手間料とにて金275円を要せり
明治7年頃の学校費支弁の方法として、学校日掛といって毎戸日掛をし、生徒もまた「毎日1人に付、金1厘5毛ずつの日掛をなし、その不足は村費として賦課徴収したり」とされている（熱海市史より）

明治8年　10月

熱海本校より分離独立する

明治9年　4月18日

校名の変更－足柄県の一部が静岡県に入り、網代も静岡県に入ったので、第2大学区に所属することとなり、「第2大学区30番中学区79番小学」と校名を変更した
その後、同年7月、「79番2等小学」と称した

明治10年頃の網代

（熱海市史より）網代村は戸数は431軒にして、人口2177人、内男1125人、女1052人なり・・・人民は農、諸商売、旅泊、漁業を以て職とすれども、其中最たるものは漁業なり

明治12年

（沿革誌より）明治12年春、本村海面字古網場と称する根拵網（ねこさえあみ）場を10ヶ年間場代金2,000円を以て本村漁業者中に請負わしめ、その金を以て学校基本財産となし、その利子を学費の補充とせり
2,000円の学校基本財産は、年2割の利子を以て村民に貸付け来りしかが、追々利子もしくは元金を怠納するもの増加し、学校経済に少なからざる影響を及ぼし来りしを以て、明治17年より利子を引下げ・・・
明治24年に至り、利子を1ヶ年の日数に割り当て日掛法を立てて毎日之を掛込ます・・・右の資金利子は、明治31年3月校舎修繕の際費消して余すところなし

明治12年　9月29日

「教育令」公布
これにより、生徒は1ヶ年に4ヶ年以上、4年間に16ヶ月通学すれば義務教育終了と見なされ、小学校の科目も減らされ、学区をやめ、各町村が公立小学校を設置することになった

明治14年　3月

千種顕信氏初代校長となる、月俸金10円給与

明治17年　7月

町村の連合により、網代村は上多賀村、下多賀村を合併し、網代村に戸長役場がおかれた
本校もまた上多賀、下多賀の両小学校を合併し、その授業を管理した

明治19年　4月10日

「小学校令」公布　いままでの半年進級制にもとづく初等科3年間6級の制度が、尋常科4年と改められ、初めて義務教育となった

明治19年　12月

校名を「網代尋常小学校」と称することになった

明治20年

授業料の制度を定めて実施する
第1学年は1ヶ月金3銭、第2学年は4銭、第3学年は5銭、第4学年は6銭、補習科は通して6銭

明治22年　4月

村制施行により、上多賀、下多賀両校分離　校名は、網代村立網代小学校と称することになった

明治23年　3月

校章制定

明治23年　8月29日

暴風雨のため校舎破損したが、直ちに修繕出来ず、25年5月ようやく修繕出来た

明治23年中

（熱海市史より）漁業権をめぐる紛争のために村は大へん疲弊した
（沿革誌より）村内に葛藤生じ、人民疲弊、学校もまたその余波を受け氣息たり

明治23年　10月

「小学校令」の改正、村の区域が小学校の学区と定められ、小学校の設立管理等はすべて村の義務、責任であることが明らかにされ、「網代村立網代尋常小学校」と称す

明治24年　10月15日

勅語（註　教育に関する勅語）謄本下付される

明治25年　10月31日

（沿革誌より）両陛下御尊影を拝戴す、奉安所は構堂の一方を仕切り・・・その中に檜白木造りの神殿をすえ、此の内に奉安し・・・

明治30年　9月9日

暴風雨のため校舎破損、直ちに大修繕を加うる予定なりしが、時の村長日吉六右エ門発病死、之に加えて村内に葛藤生ぜし為工事に着工することをなさず、翌31年2月に至り工事に着手、3月に至りほぼ落成せり、この時、新たに玄関を設け、屋根を瓦下地に改築し、又後側の下家を尚前方に出すこと1尺5寸、以て下足場、傘置場を設け、教室を3個に区切り、これまでの引窓はすべて普通半窓に、又上部の羽目はすべて壁に改造せり（沿革誌より）

明治31年　4月より

授業料改正　第1学年5銭、第2学年6銭、第3学年7銭、第4学年8銭、補習科15銭

明治32年　4月より

授業料改正　第1学年6銭、第2学年7銭、第3学年8銭、第4学年は10銭、補習科20銭

明治34年　4月より

授業料改正　尋常科授業料を徴収せず、補習科は金15銭を徴収

明治35年　4月より

補習科も授業料を徴収せず
生徒数増加し、1、2年の授業は午前午後に分け、2部教授とする

明治36年　6月

教科の中に裁縫が加わった

明治38年　4月

教室の一部を建増し、2部授業を解消

明治39年　6月

「網代村立網代尋常高等小学校」と称す

明治40年　1月27日

間口20間、奥行5間1尺5寸の副築教室ならびに付属便所竣工す・・・この時旧校舎の方向を変換す・・・工事担当者は沼津の人立花菊治郎なり、又副築工事をなすに付て校地を

	購入拡張す、この時の管理者は、村長臨時代理師岡貢、工事委員は、堀井多三郎、菊間梅吉、平井喜太郎の三氏、大工棟梁は、本村の人岡田万治郎にして校長は、内田岩太郎なり（沿革誌より）この工事の費用は校舎敷地購入費736円40銭、校舎増築費2,492円65銭4厘、旧校舎移転費209円42銭5厘、玄関設備、旧校舎修繕費304円35銭で合計3,742円82銭9厘であったという
明治40年 4月	校舎増築により2部教授を廃し、高等科の修業年限を4ヶ年に延長 高等科の授業料を月25銭に改正する
明治41年 3月	小学校令改正により、義務教育（尋常科）は6ヶ年、高等科は2ヶ年となる
明治42年 1月12日	（学校日誌より）明治37、8年戦勝記念指導標を観音道及び下田往還の路傍に建つ
明治42年 4月1日	尋常科の教科の中に手工が加わる
明治42年 6月30日	間口18間、奥行5間半の2階建物1棟落成する・・・工事委員は、堀井多三郎、渡辺辰蔵、諸菱庄太郎、菊間梅吉の4氏（工費5,020円83銭4厘であったという）
明治43年	（熱海市史より）明治41年から大正6年まで村長をつとめ、すぐれた漁業家であった平井正之助氏が、同43年に村有の字古網根掬網漁場をぶり大敷網漁場に変更したところ、非常な好成绩を収め、村も財政上大いに余裕を生じ、大正元年より戸数割（村民税）の徴収を中止し、道路、下水溝の整備、消防施設の充実、巡査駐在所の新築、校舎増築等の面で見事に進歩をみた
明治44年 5月	（この年の記録によると）、国、県ともトラコーマ患者多く、本校では600人の生徒中、患者数195名 治療の結果42名になったという
大正3年 9月30日	校舎改造、増築、総2階建とする 明治40年副築の平家建1棟と、明治42年落成の2階建校舎を改築し、総2階建とし、階上階下共に長さ5間巾4間（註、現在の教室と同じ大きさ）の教室4個ずつ（但し階上の3室を共通して式場等の用に供する設備とし、又階上階下共に巾1間半の廊下を付属す）及び校舎正面に間口2間、奥行1間半の玄関を設け、階上を応接室とし、応接室の後方に御影（註、天皇の御写真）奉置所を設備す・・・工事委員は、辻煤治郎、菊間梅吉、内田辰蔵、向笠丑太郎、岡本安太郎の五氏、管理者は平井正之助氏、工事担当者は大工、岡田万治郎氏、左官青木新之助氏（沿革誌より） （工事費は4,709円63銭9厘であったという）
大正4年 10月	高等科の授業料月15銭となる
大正7年 4月1日	授業料を集めないことになった
大正11年 10月30日	学制頒布50年記念として児童保護者会設立、同時に保護者会後援のもとに網代尋常高等小学校校友会を創立する 校友会機関雑誌「いさり火」第1巻第1号発刊
大正12年 9月1日	関東大地震、網代は津波の被害を受ける 全潰114戸、半潰168戸、死傷104名
大正13年 6月1日	町制施行、網代町となる
昭和5年 7月11日	（学校日誌より）本年4月以来、毎月11日をメートル記念日とし、各月必ず児童に課題を与え（メートル法）の徹底を促しつつあり 本日は学校を基点とし、観音下、長延寺、演芸館前、校医宅、阿治古神社、郵便局、各町会館、町堺等にそれぞれ距離を明示せるものを貼布す

昭和5年 8月12日	運動場拡張 本町消防組、在郷軍人分会、青年団等3団体の了解斡旋に依り、渡辺登氏所有宅地、岡本安太郎氏管理の宅地、本町所有の土地、之に里道の一部を併合して、旧運動場の南側に運動場の拡張をなす（沿革誌より）
昭和5年 11月26日	（学校日誌より）北豆大地震 午前4時の大音響に当町一帯極度に驚怖、学校運動場と寺院境内に避難せり、関東震災に、つなみを受けたる町民は、暁なお暗き震災とつなみを恐れ人心競々たりしならん 学校は、東方にやや傾き、壁は脱落、土台は外れ、西側屋根瓦10坪脱落、西側便所倒潰、極めて危険状態なり、早刻緊急町会を開催、金3,000円の予算を以って応急修理に着工す この間臨時休業となす
昭和8年 2月11日	（学校日誌より）本校尋常科第5学年以上の男児童を正団員とし、その他の児童を准団員とする網代町海洋少年団を組織し、紀元節拝賀式後、本町阿治古神社々頭に於て発団式を挙行す
昭和8年 8月	校舎落成（沿革誌より）昭和6年度に於て、小学校改築の気運進み・・・最初鉄筋3階建となし、約8～9万円の予算をもって遂行せんと目論みたれど、低利資金の融通をうけての建築としては許可しがたしと県の意向につき断念、更に現在校舎跡に18教室の木造2階建を設計して願書提出せしに、昭和6年9月10日校舎建築認可指令に接す・・・ （ところが、かねてから交渉中の本町善修院所有の現校地地続きの土地を金25,500円で譲渡を受けることができたので、その地に校舎建築をすることに変更した） そのため、当初の設計を変更し、譲渡を受けた土地に木造2階建、18教室の校舎を建築した）
昭和8年 7月23日	（学校日誌より） 昭和8年 7月23日 旧校舎取りこわし、運動場拡張のため、未完成の校舎に移転
昭和8年 9月1日	新校舎に於て普通授業開始、10月下旬運動場完成
昭和12年 7月15日	日支事変はじまる（これより戦時色強まる）
昭和12年 9月26日	三島高女バレーボール試合に選手出場、優勝す 同年10月11日田方郡教育会球技大会出場 バレー優勝（尋常科、高等科共優勝カップ獲得）バレーは、数年間、連戦連勝を続けた
昭和12年 11月14日	珠算競技会（三島実科女学校主催、田方地区）に尋常科、高等科共に優勝
昭和13年頃より	町内の戦死者の町葬が学校で行なわれ、生徒一同参列した
昭和13年 10月	3、4、5の3日間、防空演習（これより防空演習はしきりにおこなわれた）
昭和16年 4月1日	国民学校令により、静岡県田方郡網代町国民学校と改称する
昭和16年 10月30日	講堂竣工、総工費17,741円、請負者岡田喜芳
昭和16年 11月中旬	正門前工事竣工、工費400円、請負者茅野幸一 砂利、砂は国民学校児童全部之を採取運搬し、青年団員は全員一同奉仕作業を為す
昭和18年 8月	職員及青年学校生徒、高等科児童にて報国農場として、西島泰一氏所有の山林を借受け、約3反歩を開墾する
昭和19年 4月1日	併設の青年学校独立する
昭和20年 8月15日	太平洋戦争終る 今までの軍国主義的教育から民主教育への改革がおこなわれ、教育界も一時的に混乱した

昭和21年 5月	従来の保護者を拡充して後援会設立、会員は網代町全戸、会長は町長西島泰一氏
昭和22年 4月1日	「静岡県田方郡網代町立網代小学校」と改称(6、3制実施、今までの国民学校初等科6ヶ年が小学校に、高等科2ヶ年が1年間延長され3ヶ年となり中学校になった) 新制中学校同居す 昭和22年小、中連合のPTA発足
昭和25年 1月19日	中学校校舎落成により、中学校は現在地に分離
昭和26年 4月1日	PTAが小・中分離、小学校PTAはわかば会として発足
昭和26年 9月	キテイ台風により裏山崩壊、この土砂を運動場に敷く、工費追加予算により74,000円、 整地にはPTAわかば会員の労力奉仕をなす
昭和27年 9月	講堂改築 ステージを付けかえ、玄関、渡り廊下を新設する
昭和29年 7月	富士宮市立山宮小学校との交歓会開始
昭和32年 4月1日	市町合併により、「熱海市立網代小学校」となる
昭和33年 9月26日	台風22号(狩野川台風)により南側校舎屋根瓦損傷 屋根ふきかえ工事、11月竣工
昭和33年 10月28日	給食室(30.6坪)竣工、11月20日より給食開始
昭和35年 4月1日	特殊学級(ビーコン会)新設、昭和41年3月19日まで特殊教育を行う
昭和35年 4月21日	保健室、宿直室改造
昭和35年 10月12日	講堂内部一部改造
昭和37年 3月3日	創立88周年記念「希望の像」建立、魚類標本室設置 記念式挙行、記念誌発行
昭和38年 12月10日	校舎の水道工事、運動場の散水工事完了
昭和39年 4月	JRC加盟
昭和39年 10月4日	鼓笛隊生まれる
昭和39年 11月18日	校歌制定(作詞作曲、高橋 清氏)
昭和40年 2月	児童便所(水洗式)2ヶ所竣工、体育倉庫竣工
昭和40年 9月	運動場側校舎、運動場の国道側に防球用金網張工事
昭和41年 3月	教室内蛍光灯取付工事完工
昭和41年 3月19日	中庭造園事業、放送室拡張工事
昭和43年 6月	教室用ロッカー完備
昭和46年 11月	市教委指定体育研究発表会

昭和49年 3月	創立100周年記念祭
昭和51年 9月	校舎改築地鎮祭
昭和51年 12月	校章改正
昭和52年 12月	校舎落成「海の子」像建立
昭和60年 3月	屋内運動場落成
平成2年 11月	文部省、県指定 健康教育研究発表会
平成3年 6月	「青い目の人形」贈呈式 「メリーちゃんの妹・タミーちゃん」
平成3年 11月7日	日本学校体育研究連合会 全国表彰
平成11年 10月	県指定教育ルネッサンス21「楽しむ木フェスタ」発表会
平成15年 11月	網代小・山宮小交歓会 50周年記念式典
平成16年 4月	小規模特認校認定 文部科学省指定地域子ども教室推進事業(平成16・17・18年)
平成17年 4月	文部科学省豊かな体験活動推進事業推進校(平成17・18年)
平成18年	平成18・19年 熱海市研究委託校 耐震工事 全国PTA連絡協議会会長賞
平成18年 3月25日	網代中学校閉校式(網代中 多賀中と統合)
平成19年 4月1日	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 福祉教育実践校指定(平成19・20・21年)
平成25年	網代小・山宮小交歓会 60周年記念植樹
平成28年	市指定研究発表会(平成28・29年)
平成30年 2月	静岡県体力アップコンテスト表彰(令和元年・2年)
令和2年 1月23日	熱海市総合教育会議にて多賀小学校との統合が決定
令和2年 3月～5月	臨時休業(新型コロナウイルス感染症の予防のため)
令和2年 6月4日	校舎棟2～4階トイレ改修、体育館棟外壁補修、屋根改修 校舎棟4階天井内装改修(防水工事)開始
令和2年 9月	第67回網代山宮交歓会中止(感染症の予防のため)
令和2年 10月30日	校舎棟、体育館棟改修工事完了
令和3年 3月26日	網代小学校閉校式
令和3年 3月31日	閉校

歴代学校長

明治14～明治17年 千種 顕 信
 明治18年 (欠員)
 明治19～明治24年 千種 顕 信
 明治25～明治28年 小出 亀太郎
 明治29～明治30年 千種 顕 信
 明治31年 (欠員)
 明治32～明治44年 内田 岩太郎
 明治45年 村上 政太郎
 大正 2年 堀内千代之丞
 大正 3～大正 5年 矢野 副 衛
 大正 6～大正 7年 鈴木 卯 吉
 大正 8年 三須 完一郎
 大正 9～大正10年 山口 留 吉
 大正11年 稲葉 昂
 大正12年 渡辺 仙之助
 杉崎 正太郎
 大正13年 杉崎 正太郎
 大正14～大正15年 鈴木 庄 平
 昭和 2年 小長谷 秀 吉
 昭和 3～昭和 4年 佐藤 亀之助
 昭和 5～昭和 9年 土屋 武 夫
 昭和10～昭和12年 浅田 義 正
 昭和13～昭和15年 宇野 幸 雄
 昭和16～昭和20年 村上 義 哉
 昭和21～昭和22年 福田 和 雄
 昭和23～昭和25年 島田 千 秋
 昭和26～昭和27年 池谷 善 寿

昭和28～昭和31年 宮下 俊一郎
 昭和32～昭和36年 田畑 宗 夫
 昭和37～昭和38年 石井 光 三
 昭和39～昭和41年 匂坂 明 正
 昭和42～昭和45年 渡辺 静
 昭和46年 西島 多嘉平
 昭和47～昭和48年 山下 清
 昭和49～昭和50年 鬼頭 明
 昭和51～昭和52年 小峯 一 壽
 昭和53～昭和56年 岩澤 昭
 昭和57～昭和58年 吉村 新 一
 昭和59～昭和60年 川口 惠 一
 昭和61～昭和63年 渡邊 雄 司
 平成元～平成 2年 庄司 笑 子
 平成 3～平成 4年 世古 正 七
 平成 5～平成 6年 内田 絢 夫
 平成 7～平成 9年 太子 信 之
 平成10～平成11年 藤池 忠 夫
 平成12～平成14年 五十嵐 一 武
 平成15～平成16年 藤井 繁 治
 平成17～平成18年 増田 貴史雄
 平成19～平成20年 神尾 義 敬
 平成21～平成22年 宮下 美由貴
 平成23～平成24年 伊久美 寿鶴子
 平成25～平成26年 杳間 智 彦
 平成27～平成29年 井上 雅 夫
 平成30～令和 2年 糠谷 康 弘

歴代PTA・わかば会会長

昭和22年 長谷川 長太郎
 (網代町PTA会長)
 昭和23年 佐藤 国 造
 昭和24～昭和25年 長谷川 長太郎
 昭和26年 八代 喜 満
 (わかば会会長)
 昭和27～昭和28年 佐藤 国 造
 昭和29年 平井 三 郎
 昭和30～昭和31年 岡田 実 重
 昭和32～昭和33年 堀井 康 夫
 昭和34～昭和35年 岡田 実 重
 昭和36～昭和37年 間瀬 悦 基
 昭和38年 川口 衛
 昭和39年 辻 浩 二
 昭和40～昭和42年 山中 直 実
 昭和43～昭和44年 小沢 高 嘉
 昭和45～昭和46年 海野 勘 次
 昭和47～昭和48年 西島 栄三郎
 昭和49年 小沢 和 美
 昭和50～昭和51年 森野 昭 光
 昭和52～昭和53年 西井 昌 弘
 昭和54～昭和55年 川口 衛
 昭和56年 平井 哲 朗
 昭和57～昭和59年 石山 安 信
 昭和60～昭和62年 田口 静 俊
 昭和63～平成 2年 石村 信 一
 平成 3年 小安 誠

平成 4年 海野 喜之助
 平成 5年 長谷川 伸 博
 平成 6年 細谷 佳 夫
 平成 7年 長谷川 伸 博
 平成 8年 内田 孝 雄
 平成 9年 大曾根 歳 郎
 平成10年 長谷川 伸 博
 平成11年 山口 省 三
 平成12～平成14年 加藤 正 春
 平成15年 藤田 実
 平成16年 水野 秀 司
 平成17年 間瀬 秀 人
 平成18年 大曾根 秀 彦
 平成19年 山本 博 文
 平成20年 間瀬 秀 人
 平成21年 菊地 賢 次
 平成22年 舘 啓 徳
 平成23年 中井 英 明
 平成24年 萩原 辰 生
 平成25年 菊地 賢 次
 平成26年 長谷川 努
 平成27年 日吉 慎 次
 平成28年 千葉 英 晃
 平成29年 舘 啓 徳
 平成30年 大川 雅 則
 平成31年 海野 弘 孝
 令和 2年 杉坂 亮 知

歴代教職員

校長◎教頭○

河 口 き よ (昭和11. 3.31-昭和23. 3.31)
 柴 田 武 (昭和13. 3.31-昭和22. 4. 1)
 萩 原 中 庸 (昭和17. 3.31-昭和22. 3.31)
 ◎石 井 光 三 (昭和18. 3.31-昭和23. 3.31)
 〃 (昭和37. 4. 1-昭和39. 3.31)
 早 川 澄 江 (昭和18.10.31-昭和22. 3.31)
 平 岩 茂 (昭和19. 9.30-昭和23. 3.31)
 稲 本 清 子 (昭和19.12.31-昭和23. 3.31)
 ○山 田 勝 男 (昭和20. 3.31-昭和23. 3.31)
 杉 本 とも江 (昭和20.12.31-昭和23. 3.31)
 中 村 利 之 (昭和21. 4.30-昭和22. 3.31)
 落 合 美 重 (昭和21.10.15-昭和22. 3.31)
 下 川 春 枝 (昭和21. 9.30-昭和24. 3.31)
 石 田 公 夫 (昭和22. 3.31-昭和23. 3.31)
 上 原 咲 子 (昭和22. 3.31-昭和26. 9.30)
 高 野 一 重 (昭和22. 5.10-昭和24. 7.10)
 岩 沢 昭 (昭和22. 5.15-昭和25. 3.31)
 〃 (昭和29. 4. 1-昭和37. 3.31)
 野 村 紀 正 (昭和22. 6.15-昭和23. 3.31)
 中 島 久 雄 (昭和23. 3.31-昭和24. 3.31)
 飯 田 直 (昭和23. 3.31-昭和31. 3.31)
 稲 葉 賢 (昭和23. 4.10-昭和25. 3.31)
 岩 沢 すみ江 (昭和23. 4.10-昭和25. 3.31)
 寺 田 美代子 (昭和23. 4.10-昭和25.12.31)
 〃 (昭和26.11. 1-昭和32. 8.31)
 高 島 脰 (昭和23. 4.15-昭和35. 3.31)
 小 田 孝 子 (昭和23. 4.15-昭和24. 3.31)
 ◎福 田 和 雄 (昭和21. 3.31-昭和23.10.31)
 菊 間 義 之 (昭和21. 3.31-昭和29. 3.31)
 鈴 木 公 寿 (昭和21. 3.31-昭和22. 3.31)
 杉 山 康 子 (昭和21. 3.31-昭和23. 3.31)
 山 口 司 二 (昭和24. 3.31-昭和27. 4.30)
 小 林 洋 子 (昭和24. 4.30-昭和27. 3.31)
 森 田 さよ子 (昭和24. 7.31-昭和27. 3.31)
 島 田 せ ん (昭和24. 8.31-昭和24.10.31)
 海老名 定 男 (昭和24.10.31-昭和28. 3.31)
 寺 田 郁 夫 (昭和24. 3.31-昭和24.11.30)
 西 田 憲 子 (昭和24.11.30-昭和35. 3.31)
 ◎島 田 千 秋 (昭和23.10.31-昭和26. 3.31)
 松 永 昭 (昭和25. 3.31-昭和27. 3.31)
 仁 科 良 子 (昭和25. 3.31-昭和26. 3.31)
 小 林 隆 子 (昭和25. 4.30-昭和25.11.30)
 三 宅 吉 次 (昭和25. 5.31-昭和25.12.31)
 佐 藤 綾 子 (昭和25. 8.15-昭和26. 2.28)
 稲 穂 柳 子 (昭和26. 1.16-昭和27. 3.31)

福 沢 義 信 (昭和26. 2.16-昭和26. 9.30)
 ◎池 谷 善 寿 (昭和26. 4. 1-昭和28. 3.31)
 菊 間 勇 (昭和26. 4. 1-昭和30. 3.31)
 稲 村 愛 子 (昭和26. 4. 1-昭和27. 3.31)
 内 田 智 子 (昭和26. 4. 1-昭和27. 3.31)
 管 野 淑 子 (昭和26. 4. 1-昭和27. 3.31)
 田 卷 泰 光 (昭和27. 4. 1-昭和30. 3.31)
 浅 井 と し (昭和27. 4. 1-昭和29. 3.31)
 鈴 木 隆 (昭和27. 4. 1-昭和28. 3.31)
 増 田 みち子 (昭和27. 4. 1-昭和29. 3.31)
 田 村 真 一 (昭和27. 4. 1-昭和28. 3.31)
 安 立 寛 子 (昭和27. 4. 1-昭和27.12.31)
 岩 崎 弘 (昭和27. 4. 1-昭和34. 3.31)
 内 田 美代子 (昭和27. 4. 1-昭和34. 3.31)
 土 谷 直 司 (昭和28. 1. 1-昭和36. 3.31)
 時 田 定 子 (昭和28. 1. 1-昭和29. 3.31)
 ◎宮 下 俊一郎 (昭和28. 4. 1-昭和32. 3.31)
 渡 辺 信 夫 (昭和28. 4. 1-昭和38. 3.31)
 遠 藤 一 夫 (昭和28. 4. 1-昭和36. 3.31)
 小 林 ささえ (昭和28. 9. 1-昭和29. 3.31)
 芦 川 重 夫 (昭和28. 9. 1-昭和33. 3.31)
 柴 田 徳 子 (昭和29. 4. 1-昭和33. 3.31)
 浅 井 徳 政 (昭和29. 4. 1-昭和32. 3.31)
 新 海 やゑ子 (昭和29. 4. 1-昭和35. 3.31)
 矢 田 典 敬 (昭和30. 4. 1-昭和31. 3.31)
 小 川 泰 三 (昭和30. 4. 1-昭和31. 3.31)
 石 橋 冴 子 (昭和30. 4. 1-昭和33. 3.31)
 岩 本 正 之 (昭和31. 4. 1-昭和33. 3.31)
 長 沢 久 平 (昭和31. 4. 1-昭和32. 3.31)
 深 川 智 章 (昭和31. 4. 1-昭和31. 8.31)
 ◎田 畑 宗 夫 (昭和32. 4. 1-昭和37. 3.31)
 森 野 務 (昭和32. 4. 1-昭和36. 3.31)
 小 林 蕃 (昭和32. 4. 1-昭和33. 3.31)
 今 井 嶺 子 (昭和32. 9. 1-昭和38. 3.31)
 ○加 藤 銀 作 (昭和33. 4. 1-昭和40. 3.31)
 土 屋 信 子 (昭和33. 4. 1-昭和39. 3.31)
 荒 木 淑 江 (昭和33. 4. 1-昭和38. 3.31)
 平 井 義 久 (昭和33. 4. 1-昭和39. 3.31)
 鈴 木 丈 夫 (昭和33. 4. 1-昭和39. 3.31)
 沢 木 ヒサ子 (昭和34. 4. 1-昭和37. 3.31)
 半 場 良 平 (昭和34. 4. 1-昭和41. 3.31)
 鈴 木 通 弘 (昭和35. 4. 1-昭和38. 3.31)
 菊 地 実枝子 (昭和35. 4. 1-昭和37. 3.31)
 金 田 昭 三 (昭和35. 4. 1-昭和35.10.16)
 高 坂 真 一 (昭和36. 4. 1-昭和43. 3.31)

◎鬼 頭 明 (昭和37. 4. 1-昭和43. 3.31)
 〃 (昭和49. 4. 1-昭和51. 3.31)
 渡 辺 佳 徳 (昭和37. 4. 1-昭和44. 3.31)
 白 井 洋 (昭和37. 4.16-昭和49. 3.31)
 山 口 艶 (昭和37. 9. 1-昭和50. 3.31)
 鍛 彰 (昭和37. 5. 1-昭和42. 3.31)
 小 花 明 子 (昭和38. 4. 1-昭和41.11.14)
 瀬 戸 房 枝 (昭和38. 4. 1-昭和41. 3.31)
 朝 倉 信 子 (昭和38. 4. 1-昭和44. 3.31)
 山 田 倫 子 (昭和38. 4. 1-昭和39. 3.31)
 河 原 富士子 (昭和38. 8. 1-昭和46. 3.31)
 ◎匂 坂 明 正 (昭和39. 4. 1-昭和42. 3.31)
 ○山 田 叶 (昭和39. 4. 1-昭和44. 3.31)
 〃 (昭和52. 4. 1-昭和55. 3.31)
 勝 亦 喜 久 (昭和39. 4. 1-昭和43. 3.31)
 佐 野 かほる (昭和39. 4. 1-昭和43. 3.31)
 鈴 木 瑞 代 (昭和40. 4. 1-昭和43. 3.31)
 大 石 紀美代 (昭和40. 5. 1-昭和40. 7.20)
 小 川 美智子 (昭和40. 9. 1-昭和45. 3.31)
 ◎太 子 信 之 (昭和41. 4. 1-昭和46. 3.31)
 〃 (昭和59. 4. 1-平成 2. 3.31)
 〃 (平成 7. 4. 1-平成10. 3.31)
 後 藤 勝 (昭和41.11.15-昭和43. 3.31)
 ◎渡 辺 静 (昭和42. 4. 1-昭和46. 3.31)
 宇 城 正 紀 (昭和42. 4. 1-昭和46. 3.31)
 ○大 館 清 (昭和43. 4. 1-昭和45. 3.31)
 鈴 木 盛 茂 (昭和43. 4. 1-昭和46. 3.31)
 足 利 みどり (昭和43. 4. 1-昭和45. 3.31)
 笠 原 啓 師 (昭和43. 4. 1-昭和47. 3.31)
 朝 倉 嘉 子 (昭和43. 4. 1-昭和45. 3.31)
 小 松 良 枝 (昭和43. 5. 1-昭和57. 3.31)
 村 山 要 (昭和44. 4. 1-昭和47. 3.31)
 久 保 満 信 (昭和44. 4. 1-昭和48. 3.31)
 木 下 虎 次 (昭和44. 4. 1-昭和48. 3.31)
 佐 野 悦 男 (昭和44. 4. 1-昭和49. 3.31)
 土 屋 幸 子 (昭和44. 9. 1-昭和44.11.18)
 宇 田 川 ひで子 (昭和45. 4. 1-昭和47. 3.31)
 佐 野 いづみ (昭和45. 4. 1-昭和46. 3.31)
 仁 藤 牧 子 (昭和45. 4. 1-昭和48. 3.31)
 安 友 みち子 (昭和45. 4. 1-昭和47. 3.31)
 ○内 山 豊 (昭和45. 4. 1-昭和49. 3.31)
 紀 村 森太郎 (昭和45. 4. 1-昭和49. 9. 1)
 紀 村 ソノ (昭和45. 4. 1-昭和49. 9. 1)
 ◎西 島 多嘉平 (昭和46. 4. 1-昭和47. 3.31)
 増 田 公 子 (昭和46. 4. 1-昭和48. 3.31)
 市 川 和 久 (昭和46. 4. 1-昭和47. 3.31)
 片 桐 慶 子 (昭和46. 4. 1-昭和48. 3.31)
 天 満 広 子 (昭和46. 4. 1-昭和47. 1.16)
 三 浦 恒 弘 (昭和46. 4. 1-昭和50. 3.31)

篠 原 ちづ子 (昭和46. 9. 1-昭和49. 3.31)
 ◎山 下 清 (昭和47. 4. 1-昭和49. 3.31)
 和 田 泰 子 (昭和47. 4. 1-昭和53. 3.31)
 八木橋 幹 夫 (昭和47. 4. 1-昭和53. 3.31)
 ○戸 塚 裕 久 (昭和47. 4. 1-昭和54. 3.31)
 〃 (昭和63. 4. 1-平成 2. 3.31)
 二 見 マ リ (昭和47. 4. 1-昭和49. 3.31)
 吉 岡 真理子 (昭和47. 4. 1-昭和50. 8.31)
 寺 川 真知子 (昭和47. 4. 1-昭和49. 3.31)
 植 田 順 子 (昭和47. 4. 1-昭和49. 3.31)
 久保田 信 子 (昭和47. 4. 1-昭和48. 3.31)
 瀬 戸 ヒサ子 (昭和47. 4. 1-昭和53. 3.31)
 有 田 孝 作 (昭和48. 4. 1-昭和50. 3.31)
 五十嵐 富久美 (昭和48. 4. 1-昭和50. 3.31)
 川 合 洋 子 (昭和48. 4. 1-昭和51. 3.31)
 渡 辺 すみ江 (昭和48. 4. 1-昭和52. 3.31)
 三 宮 津也子 (昭和48. 4. 1-昭和50. 3.31)
 ○吉 村 新 一 (昭和49. 4. 1-昭和52. 3.31)
 川 村 あけみ (昭和49. 4. 1-昭和51. 3.31)
 村 松 恵 子 (昭和49. 4. 1-昭和51. 3.31)
 渡 辺 とも子 (昭和49. 4. 1-昭和50. 3.31)
 大川(村山)純枝 (昭和49. 4. 1-昭和54. 3.31)
 大 倉 睦 子 (昭和49. 4. 1-昭和51. 3.31)
 内 田 き ん (昭和49.12. 5-昭和57. 3.31)
 塩 谷 徳 三 (昭和49. 9. 1-平成 7.10.26)
 二 見 和 子 (昭和50. 4. 1-昭和55. 3.31)
 丸 尾 竹 伸 (昭和49. 4. 1-昭和54. 3.31)
 三 田 光 行 (昭和50. 4. 1-昭和56. 3.31)
 坪 井 広 美 (昭和50. 4. 1-昭和52. 3.31)
 水口(江崎)愛子 (昭和50. 4. 1-昭和54. 3.31)
 山 本 克 己 (昭和50. 9. 1-昭和51. 3.31)
 山 本 真理子 (昭和50. 4. 1-昭和55. 3.31)
 ◎小 峯 一 壽 (昭和51. 4. 1-昭和53. 3.31)
 立 見 庸 子 (昭和51. 4. 1-昭和54. 3.31)
 松 本 瑞 江 (昭和51. 4. 1-昭和53. 3.31)
 山 本 利恵子 (昭和51. 4. 1-昭和54. 3.31)
 西 島 裕 子 (昭和51. 9. 1-昭和57. 3.31)
 椎 野 朱 美 (昭和51. 4. 1-昭和51. 8.31)
 菅 野 典 子 (昭和52. 4. 1-昭和59. 3.31)
 梅 田 泰 史 (昭和52. 4. 1-昭和58. 3.31)
 藤田(松永)琴恵 (昭和52. 4. 1-昭和56. 3.31)
 ◎岩 澤 昭 (昭和53. 4. 1-昭和57. 3.31)
 森 下 智 (昭和53. 4. 1-昭和55. 3.31)
 中 江 与 長 (昭和53. 4. 1-昭和59. 3.31)
 鈴 木 瑞 恵 (昭和53. 4. 1-昭和57. 3.31)
 片 山 通 子 (昭和53. 4. 1-平成 2. 3.31)
 河野(柳橋)恵 (昭和54. 4. 1-昭和57. 3.31)
 渡 邊 充 (昭和54. 4. 1-昭和60. 3.31)
 〃 (平成 5. 4. 1-平成11. 3.31)

渡邊 充 (平成28. 4. 1-平成29. 3.31)
〃 (令和 2. 4. 1-令和 3. 3.31)
仲 亀 智 子 (昭和54. 5. 1-昭和57. 3.31)
長 嶋 清 恵 (昭和54. 4. 1-昭和58. 3.31)
渡 辺 孝 奈 (昭和54. 4. 1-昭和58. 3.31)
○原 田 幸 司 (昭和55. 4. 1-昭和60. 3.31)
持 田 國 臣 (昭和55. 4. 1-昭和62. 3. 8)
岩 本 幾 美 (昭和55. 2.13-昭和56.12.28)
大曾根 静子 (昭和55. 4. 1-昭和56. 3.31)
◎五十嵐 一 武 (昭和56. 4. 1-昭和63. 3.31)
〃 (平成 6. 4. 1-平成 9. 3.31)
〃 (平成12. 4. 1-平成15. 3.31)
中 井 礼 子 (昭和56. 4. 1-昭和59. 3.31)
田 神 嘉 子 (昭和56. 5.20-昭和56.12.28)
◎吉 村 新 一 (昭和57. 4. 1-昭和59. 3.31)
新 堀 由 美 (昭和57. 4. 1-平成 3. 3.31)
〃 (平成15. 4. 1-平成18. 3.31)
山 田 順 子 (昭和57. 4. 1-昭和60. 3.31)
青 木 理 恵 (昭和57. 4. 1-昭和61. 3.31)
梶 井 茂 美 (昭和58. 2.10-昭和59.11.17)
〃 (昭和62. 4. 2-昭和63.12.28)
〃 (平成 1. 4. 1-平成 3. 3.31)
稲 田 昌 子 (昭和57. 4. 1-昭和59. 3.31)
御 木 まさ子 (昭和57. 4. 1-昭和61. 3.31)
甘 粕 みや子 (昭和57. 4. 1-昭和60. 3.31)
山 本 愛 子 (昭和58. 4. 1-昭和59. 3.31)
小 林 久 江 (昭和58. 4. 1-平成 1. 3.31)
◎川 口 恵 一 (昭和59. 4. 1-昭和61. 3.31)
後 藤 政 子 (昭和59. 4. 1-昭和63. 3.31)
稲葉(田之倉)美保 (昭和59. 4. 1-昭和63. 3.31)
○妹 尾 建 (昭和60. 4. 1-昭和63. 3.31)
山 田 謙 次 (昭和60. 4. 1-平成 1. 3.31)
〃 (平成11. 4. 1-平成14. 3.31)
〃 (平成23. 4. 1-平成24. 3.31)
森下(太田)洋子 (昭和60. 5. 2-昭和61. 8.31)
鈴 木 一 (昭和60. 9. 2-昭和61. 3.31)
山 田 文 子 (昭和60. 4. 1-昭和63. 3.31)
〃 (平成13. 4. 1-平成16. 3.31)
◎渡 邊 雄 司 (昭和61. 4. 1-平成 1. 3.31)
高 原 米 子 (昭和61. 4. 1-平成 4. 3.31)
山仲(小松)かおり (昭和61. 4. 1-平成 5. 3.31)
山 梨 律 子 (昭和61. 4. 2-昭和62. 3.31)
来 栖 弘 子 (昭和61. 4. 1-平成 3. 3.31)
長久(叶)由美 (昭和62. 4. 1-平成 4. 3.31)
渡 辺 保 (昭和63. 4. 1-平成 6. 3.31)
松 原 実樹雄 (昭和63. 4. 1-平成 5. 3.31)
小 川 康 子 (昭和63. 4. 1-平成 1. 3.31)
佐 野 仁 美 (昭和63. 4.15-平成 1. 3.31)
河 合 稚加子 (昭和63. 8. 6-昭和63.11.14)

吉 田 俊 子 (昭和63. 4. 1-平成 3. 3.31)
渡 辺 とし子 (昭和64. 1. 4-平成 1. 3.31)
◎庄 司 笑 子 (平成 1. 4. 1-平成 3. 3.31)
坂 本 貢 孝 (平成 1. 4. 1-平成 4. 3.31)
菅 野 浩 之 (平成 1. 4. 1-平成 4. 3.31)
○高 石 文 夫 (平成 2. 4. 1-平成 6. 3.31)
林 エツ子 (平成 2. 4. 1-平成 5. 3.31)
◎世 古 正 七 (平成 3. 4. 1-平成 5. 3.31)
中 島 洋一郎 (平成 3. 4. 1-平成 8. 3.31)
鈴 木 智 子 (平成 3. 4. 1-平成 8. 3.31)
河 合 宏 子 (平成 3. 4. 1-平成 5. 3.31)
山 口 庸 子 (平成 3. 4. 1-平成 6. 3.31)
榎 本 光 子 (平成 4. 4. 1-平成 7. 3.31)
近 藤 恵 子 (平成 4. 4. 1-平成10. 3.31)
神 戸 和 子 (平成 4. 4. 2-平成 5. 3.26)
村 松 路 子 (平成 4. 4. 1-平成 7. 3.31)
植田(古山)博子 (平成 4. 4. 1-平成 8. 7.31)
◎内 田 絢 夫 (平成 5. 4. 1-平成 7. 3.31)
本 間 万里子 (平成 5. 4. 1-平成11. 3.31)
土 田 和 子 (平成 5. 4. 1-平成11. 3.31)
佐 野 武 子 (平成 5. 4. 1-平成 7. 3.31)
多田(松本)真由美 (平成 6. 4. 1-平成11. 3.31)
加 藤 八重子 (平成 6. 4. 1-平成13. 3.31)
○石 川 雅 信 (平成 7. 4. 1-平成11. 3.31)
〃 (平成22. 4. 1-平成24. 3.31)
竹 内 瑞 穂 (平成 7. 4. 1-平成 9. 3.30)
椿 美知子 (平成 7. 4. 1-平成 9. 3.31)
深 澤 勝 義 (平成 7.11. 6-平成 8. 3.29)
山 本 吉 則 (平成 8. 4. 1-平成10. 3.31)
井 村 恭 子 (平成 8. 4. 1-平成 9. 3.30)
野 中 裕 子 (平成 8. 8. 1-平成10. 3.30)
石 井 光 次 (平成 8. 4. 1-平成19. 3.30)
○西 島 幹 人 (平成 9. 4. 1-平成11. 3.31)
加 藤 悦 子 (平成 9. 4. 1-平成12. 3.31)
本 多 聡 美 (平成 9. 4. 1-平成10. 3.30)
安 養 祥 子 (平成 9. 4.1-平成10. 3.30)
◎藤 池 忠 夫 (平成10. 4. 1-平成12. 3.31)
鈴 木 昌 宏 (平成10. 4. 1-平成15. 3.31)
○國 原 尋 美 (平成10. 4. 1-平成15. 3.31)
〃 (平成29. 4. 1-平成31. 3.31)
渡 邊 小夜子 (平成10. 4. 1-平成11. 3.30)
西 島 洋 子 (平成10. 4. 1-平成19. 3.30)
山 本 和香枝 (平成10. 4. 1-平成14. 3.30)
○藤 田 理 (平成11. 4. 1-平成14. 3.31)
村 上 みさよ (平成11. 4. 1-平成13. 3.31)
岩 瀬 好 幸 (平成11. 4. 1-平成14. 3.31)
石原(渥美)比奈子 (平成11. 4. 1-平成14. 3.31)
佐々木 直 美 (平成11. 4. 1-平成12. 3.31)
高 野 和 美 (平成11. 4. 1-平成11.10.31)

高 鳥 こずえ (平成11.11. 1-平成14. 3.30)
新 崎 明 子 (平成11. 4. 1-平成11.11.30)
小 松 和 子 (平成11.12. 1-平成12. 3.31)
杉 山 恵 子 (平成12. 4. 1-平成16. 3.31)
安 立 智 美 (平成12.11.16-平成13. 3.31)
門 松 つる子 (平成12. 4. 1-平成13. 3.31)
長谷川 裕 己 (平成13. 4. 1-平成16. 3.31)
樋 川 寿 美 (平成13. 4. 1-平成16. 3.30)
〃 (平成22. 4. 1-平成24. 3.30)
竹 部 正 子 (平成13. 4. 1-平成16. 3.31)
○赤 堀 裕 子 (平成14. 4. 1-平成16. 3.31)
戸 田 太 郎 (平成14. 4. 1-平成17. 3.31)
今 福 美 樹 (平成14. 4. 1-平成20. 3.31)
仲野(前田)さおり (平成14. 4. 1-平成21. 3.31)
山 本 永 子 (平成14. 4. 1-平成18. 3.30)
◎藤 井 繁 治 (平成15. 4. 1-平成17. 3.31)
小柳津 友 助 (平成15. 4. 1-平成18. 3.31)
○道 下 幸 夫 (平成16. 4. 1-平成18. 3.31)
杉 崎 ことみ (平成16. 4. 1-平成19. 3.31)
前 田 節 子 (平成16. 4. 1-平成18. 3.30)
田 代 陽 佑 (平成17. 3. 8-平成18. 3.30)
井 上 美智子 (平成16. 4. 1-平成18. 3.31)
加 藤 八重子 (平成16. 4. 1-平成18. 3.31)
◎増 田 貴史雄 (平成17. 4. 1-平成19. 3.31)
鈴 木 さくら (平成17. 4. 1-平成19. 3.30)
齊 藤 江 美 (平成17. 4.28-平成20. 9. 1)
○高 野 新 (平成18. 4. 1-平成20. 3.31)
青 木 智 浩 (平成18. 4. 1-平成20. 3.31)
〃 (平成26. 4. 1-平成30. 3.31)
小 林 義 幸 (平成18. 4. 1-平成21. 3.31)
福 原 美由紀 (平成17. 4. 1-平成19. 3.30)
小 高 たけ子 (平成18. 4. 1-平成18. 7. 3)
梅 原 順 子 (平成18. 7. 3-平成21. 3.31)
梶 井 ちかげ (平成18. 4. 7-平成19. 3.30)
藤 本 貴 博 (平成18. 4. 1-平成19. 3.30)
青 木 信 也 (平成18. 4. 1-平成19. 3.30)
〃 (平成24. 4. 1-平成27. 3.31)
◎神 尾 義 敬 (平成19. 4. 1-平成21. 3.31)
渡 邊 総一郎 (平成19. 4. 1-平成23. 3.31)
草 野 恵美利 (平成19. 4. 1-平成23. 3.31)
太 田 有 紀 (平成19. 4. 1-平成23. 3.30)
山 根 しのぶ (平成19. 4. 1-平成20. 3.31)
高 橋 朱 里 (平成19. 4. 1-平成20. 3.31)
山 田 志 穂 (平成19. 4. 1-平成20. 3.31)
○露 木 いつよ (平成20. 4. 1-平成22. 3.31)
佐 藤 正 和 (平成20. 4. 1-平成24. 3.31)
正田(棚橋)奈穂子 (平成20. 4. 1-平成25. 3.31)
遠 藤 恵 子 (平成20. 4. 1-平成22. 3.31)
根 岸 政 子 (平成20. 4. 1-平成21. 3.31)

山 本 麻 衣 (平成20. 4. 1-平成22. 3.31)
◎宮 下 美由貴 (平成21. 4. 1-平成23. 3.31)
坂 本 真由美 (平成21. 4. 1-平成24. 3.31)
大 川 創 史 (平成21. 4. 1-平成22. 3.31)
花 田 光 子 (平成21. 4. 1-平成22. 3.31)
小宮山 洋 史 (平成22. 4. 1-平成25. 3.31)
小 林 和 代 (平成22. 4. 1-平成23. 3.30)
稲 葉 良 太 (平成22. 4. 1-平成25. 3.31)
◎伊久美 寿鶴子 (平成23. 4. 1-平成25. 3.31)
佐 藤 加菜子 (平成23. 4. 1-平成24. 3.30)
田 中 安里勢 (平成23. 4. 1-平成29. 3.30)
山 田 愛 子 (平成23. 4. 1-平成29. 3.31)
○金 子 公 彦 (平成24. 4. 1-平成25. 7.17)
○大 島 尋 隆 (平成24. 4. 1-平成26. 3.31)
〃 (平成31. 4. 1-令和 3. 3.31)
増 田 佳 奈 (平成24. 4. 1-平成27. 3.31)
道 下 沙央里 (平成24. 4. 1-平成26. 3.31)
◎沓 間 智 彦 (平成25. 4. 1-平成27. 3.31)
○片 桐 英 生 (平成25. 8.21-平成29. 3.31)
春 日 奈 月 (平成25. 4. 1-平成31. 3.31)
瀬 戸 鷹 雄 (平成25. 4. 1-平成28. 3.31)
石 川 奈津子 (平成25. 4. 1-平成26. 3.31)
杉 村 秀 子 (平成26. 4. 1-平成26.10. 4)
馬 島 啓 吉 (平成26.10. 6-平成27. 3.31)
加 藤 理 恵 (平成26. 4. 1-平成27. 3.31)
野 村 幸 世 (平成26. 1. 5-平成27. 3.31)
◎井 上 雅 夫 (平成27. 4. 1-平成30. 3.31)
海津(角田) 緑 (平成27. 4. 1-平成31. 3.31)
村 松 巳代枝 (平成27. 4. 1-令和 2. 3.31)
飯 塚 岳 臣 (平成27. 4. 1-平成28. 3.31)
〃 (平成30. 4. 1-令和 2. 3.31)
石 井 みどり (平成27. 4. 1-平成28. 3.31)
土 屋 菜 々 (平成27. 4. 1-平成30. 3.31)
戸 田 由美子 (平成28. 4. 1-令和 3. 3.31)
鈴 木 悠 美 (平成28. 4. 1-平成30. 3.30)
長 津 志穂里 (平成28. 4. 1-平成31. 3.31)
中 村 美 王 (平成29. 4. 1-令和 3. 3.31)
藤 本 幸 子 (平成29. 4. 1-令和 3. 3.31)
西 島 彩 (平成29. 4. 1-平成30. 3.31)
◎糠 谷 康 弘 (平成30. 4. 1-令和 3. 3.31)
岸 貴 典 (平成30. 4. 1-令和 2. 3.31)
滝 澤 かよ子 (平成30. 7. 2-令和 2. 3.31)
藤 本 明 香 (平成31. 4. 1-令和 3. 3.31)
葛 浦 わか代 (平成31. 4. 1-令和 3. 3.31)
小 松 雅 史 (平成31. 4. 1-令和 3. 3.31)
前 田 利 宏 (令和 2. 4. 1-令和 3. 3.31)
新 塘 尚 子 (令和 2. 4. 1-令和 3. 3.31)

卒業生・在校生名簿

昭和22年度

森野豊 内田守 長谷川敬 望月銳 天野光 森野哲 是村盛 井澤千 小日吉 深田晴 堀井利 小田泉 荒川錦 岡地光 森野市 田島健 力石充 大曾根達 石橋重 加藤壽 森野知 山本正 長谷川彰 平井眞 松田昭 中森野 明心藤 遠菊地 中鈴木 梅澤井 間

土屋輝 平井賢 多比野 水稻葉 土宮下 内勝木 菊谷川 菅福鈴 工渡森 福井平 海石久 下辻木 坂森田 岡行間 山中喜 小堀森 青日杉 松下山

喜沼地 沼田享 多比田 前菊地 小宮澤 小周防 森富岡 諸菱崎 山納深 矢河田 森與藤 諸

昭和23年度

西崎徹 内田司 山本知 水野正 蓮井庄 森野眞 伊東山 青佐藤

内田直 菊池正 田中西 今月村 西岩澤 喜森村 根本山 青杉辻 田村森 仲増田 森鈴木 水石大 井水栗 土田小 眞内望 綴中山 岡菊渡

竹内崇 菊問武 青木一文 川藤家 上佃地 菊深澤 高齊森 間菊間 岡小山中 河西河 杉森深 藤小内 河聞玉 吉内村 西森岡 渡澤田 堀原

藤本逸 村山晴 長谷川悦 余増あ 深澤き 林井律 平野井 石山井 野口宮 北山口 山中細 森野島 堀鈴木 原大川 能島

昭和24年度

吉田治 諸八代 田村田 森野村 是田村 植大富 鈴小堀 森岡野

寺田禮 遠藤勝 辻野正 堀星克 花井本 河西崎 山富岡 藤森下 細田谷 山辻野 飯村田 西野田 星岡深 森水山 太日增 森片小 杉野川 石内森 稻西深 坂増田 内

山本妙 福島君 岡田美 水野村 藤山本 小井澤 石菊間 河野圭 平井幸 中村嘉 山石本 宮本萩 米細稻 楠菊尾 前吉渡 関内村

昭和25年度

今西日 森野光 浅香山 蓮井

木村延 森野利 土屋達 河行方 長谷川 鈴木中 田井上 浜斎藤 村小松 平吉深 高小岩 水佃井 川口誠 大曾根 川加諸 松森塩 小間堀 遠水納 西岡平 菊林高 齋佐

田中英 森野幸 岩崎田 内諸菱 内栗下 稲石海 森金子 内青岩 森日北 中菊小 深杉平 岡小片 聞堀天 河内喜 小川内 小杉西 鈴仲前 岡

山本由美子
川口島子
岩澤香悦子
菊間野憲子
海濱よし子
濱野寛子
大川村光枝子
田野尾三恵子
森斧橋真弓子
三村由美子
田松真知子
小山中恵美子
小松さかえ美
村田明裕代
国本川和光

昭和39年度

稻穂力
細谷修次
聞間実男
久保田祥徳
阿路正隆
水野秀秋
村田中美男
内藤厚雅光
西村昭次
小安松之朗
小岡田真雄
堀邊宏一
内田浩己
源島茂
西菊岡俊秀
富鈴菅原一

冲山博
町田佳志子
森野中美和子
田中野道代子
森野村美子
澤野弘美子
森草川かよ子
荒川泉明美子
小村田千鶴子
菊高橋順子
青木泰子
御木みち子
中村早苗代子
山田惠祥子
西井真樹子
松村真理子
竹本滋子
小島由照
澤内藤富士夫
渡邊明博
岩澤利治幸彦
岡渡邊孝靖夫
三比野賢昭光
日渡邊田弘治
寺屋静芳行司
齊藤恭道明
森吉川弘吉昇
西片山純一郎
伊藤大木山田
本和

是村夕美
岡田容子
正木久美子
菊地智子
深澤美智子
大上かよみ
高山野ひろみ
平井裕子
田村吉野子
町田逸子
水野富士子
西村あけみ江
小松千賀苗
濱荻美恵子
辻野佐恵子
森中山澄子

昭和40年度

澤田恵市
周防徳久裕
山中清勉
西村孝之男
多比治喜啓夫
西原間一人
内田茂克実郎
深澤村井敏進
櫻喜地利勝一
正喜山正人
冲上井真貴
堀古屋智貴子

磯野淳子
荒川貞子
榎木由美子
鈴高橋益代子
田村恵子
小松一二三子
稲富岡百合子
山本玲子
吉田喜美恵子
伊東光好敏
西村一男樹
土屋春淳海
三橋展之清
古海野亨
小泉田猛己
長谷川井松保
村口裕憲文
森上野伸夫
大森野滋悦子
石稻葉眞喜子
山安山治美
小藤田眞佐子
岸本屋礼子
土澤三千子
川口加寿子
堀井千敏秋
信木澤絹好江
岩田地正江

昭和41年度

海野洋一
森野茂
杉野信宏
菊地光治
田中良進
三井三千夫
土屋克実
小松克彦
森野琢
田中清映
内海健太郎
松尾滋之
澤村康彦
岡田直修
内田之代
間瀬依久子
小松順子
小村伊都子
内藤玲美
海野眞喜江
小島真澄
中山ひとみ
中松井晴美
西原福子
森村登美枝
田村五十鈴
内田京子
西工藤伊都子
間原進之
菅澤村上敬
伊藤二男

山本秀人
杉本公治
鈴木井徹也
川口隆
原村賢一郎
西井芳徳
岡地良樹
菊間長治
川口進明
久田公真人
片山邊徹子
渡安陽子
小安村恵美子
田本光代
山岡美登里
山中まゆみ
岡野靖子
森野すみ子
石井千加枝
水野智子
田中良子
小島三代子
雲田千恵子
大川昌子
内田得子
堀井ひろみ
田村陽子

昭和42年度

鈴木寿治
中村正美
須田真勝司
堀井雅清
内山野竹光
星富岡田利幸

角田佳一
荒川和武
河西村茂典
三田村邦広
内藤雅宏
田井洋子
岩沢伊都美
大川美枝子
土安久美子
中山祥子
吉田恵利子
山中間和恵
山本茂明
山本隆子
中野靖子
岡地恭子
森野千加枝
水野智子
田中良子
小島三代子
大川昌子
内田得子
堀井ひろみ
田村陽子

小松美保子
大川潤子
宇田川則子
山本美恵子

昭和43年度

小柳厚彦
鈴木俊篤
稲穂田伸弘
鶴木部克美
木富岡真人
水野秀之
服部真乃留
青木美達
大川広和
中上清忍
小松国昭
細谷明彦
渡邊芳美
米加納志津代
池田明美
多比野礼子
藤水野百合子
山本浩子
鈴木佳代子
水野法留美
川上美江子
大沼繁美
小田村由紫乃
川口智子
土屋眞理子
三枝京子
牧喜地裕美

村上由子
角田孝行
稲葉邊岡篤雄
渡富間松謙
菊小鈴木
原澤英己
西野秀由
森中実夫
内田藤義元
武石山敬三
岡深澤俊幸子
菊地栄子
中勝木尾喜美子
松二宮満里子
岡田美恵子
中瀬戸美子
三斎藤靖子
深澤眞由美
小安田早苗
内田亜眞琴
青木村眞理香
福井藤美乃
伊久保京子

昭和44年度

岡野広宣
松島保仁

西島廣之
山口沢勝法
小宮比野達郎
日比野孝久
聞菊地伸之
土屋泰彦
鈴松井憲彦
深田千尋
多佐藤眞知子
佐鈴木敦子
田村愛由美
鈴木康代
水野伊豆美
青山木詩子
山本忍子
菊地桂くるみ
細岡田孝代
茂木健二
内田光勝
川口義夫
小濱田泰男
小富岡保元
菅原基寿
岡崎孝芳
長谷川地利郎
喜沢正晴
中田孝江
下菊地ひとみ
石村広美
水野利恵子
山本泰子
古屋文子
雲田博恭子
中松本千栄子
河内藤恵美子

昭和45年度

青木哲男 加納幸広 細谷克俊 藤田法彦 大川孝一 大瀧昭修 鈴木秀彦 石山均鈴 中山美恵 平井吉美 日斎藤寿子 内井芳乃 平籀衣代 松尾真喜子 山口美智子 吉田弥生 中榎本鈴江 小柳明美 納屋滋美 古鈴木ミ 鈴木康範 中松道一 古濱荻仁志 濱下賢一郎 水野文彦 植村和田 鶴田通孝 山川和実 荒水内土

水野悦子 勝木伊都子 西澤麻有子 池田昌代 高橋利恵 青木光子 田村佳子 富岡美恵子 杉山淑子 米山口三枝子 川枝中由子 長谷川好子

昭和46年度

中井誠 西島育男 小澤紳一郎 久田千治 多田浩次 長谷川賢一 河野哲也 村恭一 服部真紀 石井弘行 榎保徳 久鈴木美由 野田和江 斎藤由美子 石内井原山 木部優子 喜海野和勝 菊地木

西島あつ子 福田井島こずえ 菊地高幸 岡田勝義 田中嘉康 水野中和彦 徳田祐治 工藤鉄也 菊地千加夫 田村長治 浜荻高行 藤田文安 須藤哲義 佐藤祐司 西島勢津子 青木まき 聞松良美 小森野さゆり 周防千代子 岩沢朋子 富森岡小夜子 細谷明子 山本敬子 武藤洋徳 深藤田育子

昭和47年度

細谷清貴 土屋正孝 菅原浩之 長谷川和嘉 森野芳和 古田厚実 石村中隆 眞田明朗

是村豪 杉本康浩 土屋忠久 望月中夫 小松直稔 日比上樹 菊地弘義 水野久美子 中村由起子 深田明子 青木明代 澤村まなみ 坂本明枝 長谷川享子 神原満紀子 川口美幸 菊地善政 岩沢山幸 村遠藤利高 石菅代喜一 八沢俊治 中青木一永 植井八十実 中佐藤晋也 細谷光明 諸星善泰 水野伸由 細沢村起夫 関鈴木多佳史 仲森貴子 薮野佳子 土屋篤由 平井明恭 下水村田良

大川紀代美 河野しのぶ 山口孝和 石山村浩美 岡地美栄

昭和48年度

山本喜伸 荒川祥伸 鈴木信司 藤村弘久 西工藤昭久 山狩野真 片山雅児 小村山一彦 菊地慶雄 水野忠之 菊服部洋紀 遠藤正実 小島本茂 根藤輝美 遠岡垣貞子 石力山雅子 中田村裕三 周井幸澄 山中真勢 多菊間田勝久 岡納屋左千夫 山西島康光

田村晃男 高田信一 水野泰徳 片山一学 勝野卓也 河喜地雅隆 長谷川智彦 菊地和彦 角田桃子 長谷川香澄 山中恵子 浜荻敦子 大川文誉 水野清美 西井小百合 森野由紀子 野田多美子 濱田恵子 吉嶋みはる 西周防千華子

昭和49年度

水野秀司 佐藤浩之 深澤伸司 山本博文 真田英之 小松浩克 川菱克光 土屋寿彦 寺田伸浩 土星益夫 諸下田松かおり 小鈴木山戸屋 米瀬古田中

仲森光江 杉本清美 吉田深雪 植松美幸 野村京子 山本和香枝 田村由美子 岩沢節子 聞間治彦 小澤健次郎 是川賢次 柳本文男 澤村秀明 鈴木剛樹 斎藤英映 松尾寿実子 田村正恵 青伊藤雅美 水長谷川千代子 岩澤木以津美 青森下敦子 藤田栄喜美 聞荒川明美 根本明晴美

昭和50年度

中井雅和 納屋藤正 齐藤井幸 平内田克己

松尾道一 森野和滋 中村寿弥 田原昌彦 遠藤弘和 川口達弥 山本敏美 福井千春 内田祥子 石谷さゆり 狩野木綿子 沼村山寿美佳 小澤里佳子 水野詩子 菊地和枝 北宮正恵 深田麻待子 聞村崇士 稲葉克也 長谷川善朗 多田信吾 三武石文弥 関田聖次郎 小柳秀修 菊地祥典 稻葉寛安 西嶋俊二 沢村明美 森野薫子 中山千賀子 多田祥加代子 西村松延江

菊間恵美 前田孝枝 岡田昌恵 鈴木久代 内田照美 小菊泉地利佳

昭和51年度

大曾根秀彦 吉田正男 遠藤光広 日比野隆亨 森野初尋 天野千宣 森野貴志 水野木隆 鈴木伸広 田川口光明 山植松美則 森野宏史 長谷川努美 望月直美 小坪みどり 村田典子 岡田理沙 中井由香里 向芝留美 水野ゆき枝 井原弘恵 栗田美恵子 山本孝代 鈴木正美 河野明実 中荻原ユリコ 片山千生 西中山夕一

小松和也 西村菱千浩 諸大川弘康 藤田野伸之 水内田博之 内田保之 青木野城治 山口照代 榎本千加 塩谷厚子 辻山中真奈美 山細藤美奈子 齐荒船早苗 野屋真由美 土野妙子 水森野泉 抱井美恵子 深沢律子

昭和52年度

小島好彦 鈴木敏之 仲森博久 田中勉 藤星野雅俊 荒川奉之 石垣和宏 菊間内政 堀間善秀 平井野秀 森鈴木明彦 田塩谷美徳

菊 間 しのぶ
田 中 和子
遠 藤 ますみ
川 口 孝枝
小 松 明美
森 野 恵子
森 野 利佳
木 部 昌之
多 比 寿彦
西 井 丈夫
辻 澤 久弥
小 森 野 淳吉
佐 藤 浩二
吉 野 智純
古 泉 菱正
小 諸 野 孝
辻 浦 田 美樹
大 川 原 博
田 村 洋佳
西 林 香緒
高 田 明子
菊 間 防直
周 内 田 多
細 谷 礼
木 村 英美

昭和53年度

菊 地 隆雄
西 井 弘明
土 屋 武彦
内 田 正成
高 濱 正典
田 村 正一
天 野 友晴
山 野 晴一

日 比 野 克 敏
稲 葉 伸 一
小 島 実 重
田 中 洋 志
周 防 隆 一郎
渡 邊 公 孝
中 村 義 彦
山 本 賢 明
渡 澤 里 志
梅 口 千 朱
山 植 松 陽 賀
村 地 智 文 枝
辻 野 美 智 代
石 川 口 美 香
小 松 田 由 季
浦 水 口 三 枝
石 井 野 春 子
辻 水 齋 藤 徳 子
水 齋 佃 間 中 利
田 中 穂 子

昭和54年度

吉 田 晴 郎
北 宮 雅 博
高 久 浩 士
鈴 木 義 徳
片 山 圭 也
内 野 亮 三
吉 山 本 賢 光
西 村 木 雄 一
青 水 野 謙 一郎
田 村 野 守 泰
森 野 藤 薫 薫

内 田 のり子
鈴 木 美智江
大 川 孝 子
水 野 明 美
古 屋 智 江
森 野 貴 子
根 本 美 喜
槇 谷 孝 子
塩 部 孝 子
河 口 淑 子
長 谷 川 伸 之
稲 葉 下 敏 治
森 野 禎 美
栗 田 正 和
菊 間 石 泉
力 鈴 木 史 康
土 屋 西 克 彦
今 岡 田 美 希
岡 米 山 知 栄
根 本 篤 美
鳳 谷 典 子
細 田 哲 子
前 塩 崎 野 こ
森 野 真 由
水 川 口 治 乃
寺 田 直 美
遠 藤 は る み
田 中 と ち 子

昭和55年度

小 坏 透
高 橋 雅 臣
水 野 正 広
石 井 秀 樹

辻 野 仁
抱 井 喜 晃
大 川 進 明
中 井 英 一
堀 井 昭 浩
小 泉 成 夫
武 田 成 年
鈴 木 祐 二
土 屋 大 地
大 曾 根 彰 人
西 吉 田 利 一
海 野 明 文 敏
森 野 幸 彦
花 野 明 浩
菊 間 厚 志
諸 堀 井 昭 一
石 村 直 孝
小 安 田 正 博
下 河 野 政 美
平 井 美 智
水 野 五 十 鈴
向 芝 俊 江
菊 間 比 邦 衣
多 菊 藤 田 摩 子
阿 路 野 香 澄
森 是 村 中 範 子
田 鈴 木 由 美
森 内 田 陽 子

昭和56年度

土 屋 明 生
稲 葉 滋

森 野 裕 二
周 防 貴 支
鈴 木 健 由
梅 澤 忠 彦
小 島 範 康 実
平 井 下 高 行
森 橋 仁 人
石 川 口 泰 光
河 富 岡 久 和
土 屋 光 司
鈴 木 健 夫
岡 邊 か を り
渡 邊 由 美
渡 山 亜 津
中 諸 菱 千 明
内 小 吹 道 子
西 青 木 明 美
高 藤 田 由 美
日 吉 山 奈 緒
中 大 川 典 子
稻 葉 啓 子
高 平 井 昭 子
上 岡 川 直 子
富 大 川 照 美
大 小 泉 寿 子

昭和57年度

太 田 啓 介
山 本 公 樹
小 松 正 惠
内 田 博 志

田 村 直 也
西 村 和 俊
阿 路 中 三
田 中 浩 二
下 本 幸 男
山 本 敏 也
栗 田 洋 司
青 木 文 弘
周 防 真 澄
塩 崎 勝 代
沖 山 美 香
森 野 真 理
大 菊 間 節 子
蓮 井 久 美
鈴 金 子 恭 子
石 山 川 加 奈
大 杉 野 祐 子
水 野 寿 美
森 野 恭 裕
小 木 部 真 剛
渡 内 田 英 世
内 町 小 島 宏 治
向 芝 邊 光 聰
渡 森 野 健 一
田 中 本 哲 啓
山 本 幸 枝
根 本 珠 未
森 野 久 美
西 大 石 川 惠 裕
大 石 鈴 景 マ
菊 田 間 景 子

諸 菱 薫
辻 野 千 夏
河 野 好 美
聞 間 雅 恵
米 山 喜 美
西 川 清 乃
水 野 加 苗
榎 直 美

昭和58年度

田 村 貴 洋
塩 谷 克 実
土 屋 真 人
木 村 勝 貴
高 瀬 智 幸
沖 山 達 也
沼 井 一 寿
石 土 屋 和 広
吉 平 井 ひと 見
西 嶋 葉 美 喜
稻 蓮 堀 井 由 美
中 森 野 聖 子
富 岡 藤 里 美
工 水 野 佳 代
川 口 悦 延
西 山 田 隆 幸
小 大 上 川 直 樹
川 間 山 口 秀 和 隆 信 之 宏

小 泉 真一郎
岡 本 善 信
聞 山 恭 子
沖 原 真 由
菽 山 基 子
山 高 橋 康 子
海 垣 由 喜
平 井 美 喜
山 本 祐 子
土 屋 さ お り
田 中 千 尋
高 橋 砂 波

昭和59年度

小 安 弘 和
渡 邊 正 美
山 本 弘 樹
江 口 達 也
辻 野 昌 弘
藤 石 村 文 康
青 木 角 栄
金子 明 浩
川 口 伸 也
佃 木 勝 則
川 口 浩 之
石 山 田 智 明
白 田 井 綱 志
堀 水 野 直 克
小 松 野 真 一
杉 西 嶋 崇 巧
森 永 田 考 義
下 井 町 橋 本 井 美 代 子

日 吉 香 奈 子
木 部 慈 利
高 岡 夕 子
渡 邊 徳 子
鈴 村 礼 子
田 村 美 和
西 内 田 成 美
渡 花 井 睦 子
森 野 恭 光
水 鳳 千 恵
山 本 田 佳 帆
須 河 口 利 惠
平 井 み き

昭和60年度

三 浦 厚 司
河 野 努 徹
寺 富 岡 章 行
土 屋 広 旬
小 島 英 仁
望 月 延 充
中 富 岡 雅 人
鳳 川 口 直 貴
稻 穂 慎 也
木 部 晴 仁
小 泉 茂 幸
册 順 孝 克
山 本 利 千 穂
堀 井 間 美 都
諸 菱 木 真 揮
青 山 本 香 奈
菊 渡 邊 久 美

杉 野 陽 子
抱 井 み ゆ き
諸 菱 由 夏
田 中 幸 子
水 野 恭 子
森 野 公 代
山 岡 奈 都
辻 野 薫 美
堀 江 亜 香
土 屋 波 香
角 田 祐 子

昭和61年度

沖 山 弘 樹
田 中 靖 之
木 村 勝 義
白 藤 信 浩
齋 原 邦 盛
萩 岡 田 英 輔
堀 井 卓 磨
杉 坂 周 輝
菊 間 友 人
石 井 文 恵
水 野 由 美
岡 本 綾 子
菊 田 村 裕 美
下 田 惠 子
岩 澤 千 津
西 水 野 い づ み
川 口 智 子
菊 間 ゆ かり
田 口 裕 子
板 垣 橋 光 秀
高 根 本 敏 明
上 田 功 毅
青 平 井 山 芳 幸
沖 小 島 拓 也

水野宏典
森野武志
水野隆之
向笠公子
服部恵子
森田昌代
高橋弓子
内田亜弥
青木久美
菊間恵美
小泉美
杉野仁
渡邊千澄
櫻井千未
菊岡美樹

昭和62年度

小川茂樹
富岡和喜
土屋信介
榎伸之
岡崎賢一
山海野弘
寺田竜也
菊地良之
臈誓至
大川良平
森本恵美
多比真由
水野清美
山本静香
吉田浩子
橋本千春
斧尾蘭子
菊間純江
海野笑美
諸菱あかね
工藤房恵

杉野姫呂
石村綾子
日吉雪子
小松由佳
向笠真美
山田桂奈
星野みゆき
土屋恵子

昭和63年度

富岡和広
高野美明
田村大輔
藤井竜太
稲穂浩二
諸菱亮太
菊岡昌孝
森田耕介
堀井真理
小泉麻理
岡地幸代
望月稔恵
高山橋公
山口こづ
土屋大海
堀江加寿
白山優子
山岡里枝
小松令奈
抱井綾乃
内田真美
山本美和
杉野純子

平成元年度

鳥居大介
板垣吉輝
板垣安輝
下田英治

藤田健一
菊間淳一
森野洋平
水野明夫
田村繁彰
森永彰彦
諸星明史
土屋康史
福井美享
櫻井亜耶
田中麻乃
米山智子
川口真貴
鈴木裕子
細谷恵美
小川珠代
菊岡瑞恵
沖山麻衣
岡田芽美
成田由美
高野麻美

平成2年度

鳥居勇介
長谷川哲海
内藤俊英
杉坂亮知
内田良太
吉田泰伸
田口邦廣
山田真人
岡村朋子
石斧尾芽衣
山崎理恵
中山ちづる
岡地淳江
岩澤亜樹
榎由香利

喜地利沙子
菊間真理子
西村芽里
平井玲良
荒川亜希
川口裕美
岡崎明子
岡田知子

平成3年度

菊間洋介
平井哲也
岡田広二
星野友一郎
浦田雄生
多田野大輔
水野達也
鈴木弘之
三森千加
三水順和
下田賢一
森永昭博
多田野寿史
水野豊史
菊岡寧友
日比野伸一
藤田慎吾
水野村英樹
永堀数正
内田圭洋
岡田仁
塩谷壽英
須藤大志
米山久美
高橋村香
小安亜矢

平成4年度

村山弘幸
内藤雅俊
岡野学幸
福井裕二
西村巧也
喜岡地祐亮
喜地浩美
土屋和子
菊間好美
石井奈央
細谷穂子
石村菱八
諸岡田まゆみ
岡田みゆき
細谷祥美

平成5年度

土屋健夫
水野利治
水野恵介
山中健司
山本隆裕
吉田裕

水野彰子
向笠裕江
望月直子
日吉友理
森野依久
山本恵子
深澤美和
山岡日奈

富岡俊之
土屋正徳
海野聖三
山本幸史
小松雅章
平井貴章
日比野史康
鈴木真由美
星野いづみ
杉野ひろみ
長谷川祥子
田中茜
山本しのぶ
小安由香
塩谷晃佳
山本佳美
岩澤恵理香

平成6年度

菊間純樹
水野秀敏
岩澤雄一郎
山本同秀
細谷一秀
久保田匡人
山崎明洋
諸星直美
菊岡美加
内藤有美
田村恵美
稻葉真由美
茂木亜沙美
西島加奈代
海野優佳
土屋節子

平成7年度

四方教士

平井貴樹
山本和久
内田裕太
岡田陽介
山瀬健太
広瀬智之
長谷川弘記
鈴木裕子
深澤千明
岩澤友香
望月美里
平井真利子
深澤香織
小島志保

平成8年度

小松真也
渡邊淳司
西島孝夫
山田昌司
喜地啓一郎
大庭克之
平井和樹
田村茉美
山本真奈美
稻葉美里
森野華絵
高橋友世
平井佳代子
田内梨恵
真田友美
平井美保子
聞間朋子
広瀬美緒

平成9年度

石田一希
岡田舞
小野寺北登
杉野俊太郎

鈴木理歩
田中良実
土屋るみ子
平井一茂
深澤明奈
望月亜耶
山崎博永
山本恵里佳
山本麻衣
渡邊理央
武藤慧子

平成10年度

王子田武志
櫻井美里
佐藤瑶子
真田恭平
杉坂知紘
反町雅彦
西崎良陸
長谷川由維

平成11年度

内田雅也
大曾根圭子
岡田美穂
河野美咲
四方充洋
下田貴博
鈴木裕太
鈴木島幸平
根本智恵
武藤大誠
望月千絵
森野舞
山口奈穂
山本卓生

山本優衣

平成12年度

石田直希
市原早紀
稲葉千尋
遠藤翼
岡田由莉
片山恵理
加藤実理
間博之
間間祐太
佐藤美帆
杉坂知奈
平井新之助
山本秀明
山本麻衣

平成13年度

大川達也
岡地明日香
木村一茂
小松亜利紗
櫻井愛里
四方岬
土屋翔太
中井健人
西島悠太
根本友起
松山弘夢
水野陽介
森野智衣
山本美波

平成14年度

遠藤颯
大川夕貴
加藤結理
上村拓也
杉坂知穂
望月映里
森野ひとみ
山本歩

平成15年度

市原健太郎
大川陵太
大曾根孝宏
河野裕紀
喜地弘行
木村葉月
小松良光
藤田繪美
森本憲吾

平成16年度

岡田佳奈
加藤陽亮
間間亜実
喜地伸泰
木部亮太郎
西島達也
根本菜実
水野里香
森野香織

平成17年度

石井利佳
大川竜也
間間望未
島田早織
土屋拓海
中井清香
松本秋乃
諸菱遥

平成18年度

大曾根友宏
木部龍之介
中井涼介
長谷川さや
藤田百恵
水野友博
諸菱裕也

平成19年度

稲葉誠武
片山貴恵
辻野浩樹
松本圭介
山本晃宏

平成20年度

稲葉翔武
大川千晴
岡田樹
土屋七海
西島紗理菜
長谷川しほ

平成21年度

間間巧
菊地倫実
菊間千夏
後藤幸平
藤田裕二郎
諸菱絢子

平成22年度

岡明莉
中村実花子
山本七海

平成23年度

岡大輝
岡本紗南
後藤広輝
小松拓海
小松美月
辻野孝輔
土屋祐航
中井千鶴
西村雅儀
長谷川里穂
水野風紗

平成24年度

黒川喜那
佐々木玲央
辻井健大
西村結衣
野々村溪太
萩原拳一
濱萩望光

藤田美希

平成25年度

菊地咲央里
菊地夢莉亜
小松日和
田口麗花
土屋実来
西島歩夢
西村利智
朧啓雅

平成26年度

関野翔太
長谷川果南
長谷川玄
朧双葉

平成27年度

岡聖輝
菊地拳志
小松聖奈
西村航
日吉春菜

CATARINA YATEHALI JANE VALPARAISO

平成28年度

飯島萌絵
佐々木芽衣
嶋津慶二
千葉睦己

平成29年度

大川真望
吉田涼乃

平成30年度

飯島彩乃
大川真輝
菊間夕夏
小松一星
杉坂怜士
中村友花子
朧百葉

令和元年度

嶋津華穂
土屋更紗
藤原大士

令和2年度

海野寛太
大川真之輔
杉坂侑士
福井奏介
藤間裕生
ヘリヤー 紗羅マーガレット
ヘリヤー 理紗サエコ
谷澤魔沙斗
吉田雛乃

令和2年度
在校生

5年生
海野日鞠
多比慧人
千葉鴻睦

4年生
小野寺陽葵
志賀口環吾

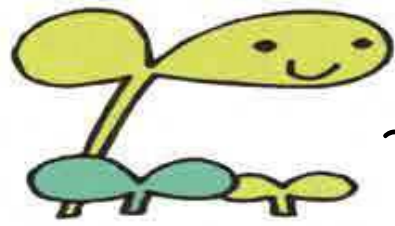
3年生
神田結菜
多比乙葉

2年生
高木色

熱海市立網代幼稚園

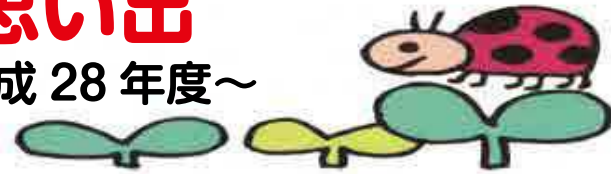
「たくさん思い出」と共に





幼稚園の思い出

～平成 26 年度～平成 28 年度～



ゆうすずみかい



「笑って」「泣いて」
皆大きくなりました。
「網代幼稚園」たくさんの
思い出をありがとう...



ようちえん
たのしかったよ!!



あじろようちえん
だいすき!!



history

幼稚園の概要

- 1 園名 熱海市立網代幼稚園
- 2 所在地 熱海市網代201番地
- 3 園地 園地652㎡ 園庭面積245㎡

園の沿革

昭和4年 4月1日	町立網代尋常小学校併設網代託児所設置
昭和21年 11月1日	網代町立網代中学校、同町立網代小学校併設網代託児所の協力団体として「網代わかば会」創立
昭和23年 3月13日	町立網代幼稚園設立許可申請書提出 町立網代幼稚園設立許可
昭和26年 4月1日	従来の「わかば会」を発展的に解消し、新たに校種別に会を創立することに決し、「町立網代幼稚園仲よし会」規約を制定し、ここに誕生をみる
昭和26年 9月	園舎敷地の整理拡張
昭和27年 6月1日	園服を制定
昭和27年 10月	職員室を増設し、階下を保育室に改造
昭和28年 5月	国際産業より鉄筋ブランコを寄贈
昭和28年 8月	手洗及び足洗場を設置（28年度仲よし会）
昭和29年 4月	藤棚設置（28年度仲よし会）
昭和30年 5月	トイレの手洗場設置
昭和30年 7月	園舎本棚改築
昭和30年 8月	保育室仕切り戸を取りつけ
昭和32年 4月1日	熱海市に合併、熱海市立網代幼稚園と園名変更
昭和35年 4月1日	完全給食実施
昭和37年 5月	ブロック花壇設置（仲よし会）
10月	器具室設置
昭和39年 10月	保育室床張替え
昭和39年 10月	幼稚園園歌作成
昭和41年 3月	保育室増築
昭和41年 10月	園旗作成
昭和42年 3月	玄関増改築
昭和43年 3月	アコーディオンドア取り付け
昭和45年 8月	保育室ガラス戸取替え
昭和46年 8月	廊下職員室床張替え
昭和47年 3月	正門扉取り付け
昭和51年 7月	園舎（校舎）改築のため園舎解体
昭和51年 7月	小学校2教室に移転、9月より保育開始

熱海市立網代幼稚園 園歌

作詞・作曲 高橋 清



- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 朝日キラキラ 丘の上
頭ふりふり ツンツツン | 土筆の坊やが せえくらべ
元気な網代幼稚園 |
| 2 子蟹にここにこ てをあげた
肩をくみくみ スイススイ | 鱈のこ 鱈のこ かけくらべ
仲よし網代幼稚園 |
| 3 風はパイプウ 青い海
波にゆらゆら ランランラン | 鷗の水兵さんが 歌くらべ
よい子の網代幼稚園 |

昭和52年 8月	新園舎に移転、9月より保育開始
昭和56年 3月	鉄棒設置
昭和58年 6月	鳥小屋設置（仲よし会）
平成8年 8月	2階ベランダ防水工事、人工芝張替え
平成9年 8月	保育室ジュータン張替え
平成10年 3月	1階トイレ2ヶ所洋式に取替え
平成10年 4月1日	3歳児保育開始
平成16年 3月	2階防水工事
平成16年 3月	防犯サイレン設置
平成18年 8月	耐震工事（ホール・会議室・すみれ組教室）
平成25年 8月	園庭 人工芝の張替え
平成27年 8月	2階保育室（すみれ組）エアコン設置
平成28年 2月22日	2階に療育施設 IPPO あじろ園設置
平成28年 11月11日	平成27・28年度 熱海市立幼稚園教育研究会指定研究発表会 研究主題「育てよう つなげよう」 ～学びや育ちをつなげる保育のあり方を考える～
平成29年 3月31日	網代幼稚園休園
令和3年 3月31日	網代幼稚園閉園

昭和52年 8月	新園舎に移転、9月より保育開始
昭和56年 3月	鉄棒設置
昭和58年 6月	鳥小屋設置（仲よし会）
平成8年 8月	2階ベランダ防水工事、人工芝張替え
平成9年 8月	保育室ジュータン張替え
平成10年 3月	1階トイレ2ヶ所洋式に取替え
平成10年 4月1日	3歳児保育開始
平成16年 3月	2階防水工事
平成16年 3月	防犯サイレン設置
平成18年 8月	耐震工事（ホール・会議室・すみれ組教室）
平成25年 8月	園庭 人工芝の張替え
平成27年 8月	2階保育室（すみれ組）エアコン設置
平成28年 2月22日	2階に療育施設 IPPO あじろ園設置
平成28年 11月11日	平成27・28年度 熱海市立幼稚園教育研究会指定研究発表会 研究主題「育てよう つなげよう」 ～学びや育ちをつなげる保育のあり方を考える～
平成29年 3月31日	網代幼稚園休園
令和3年 3月31日	網代幼稚園閉園



熱海市立網代小学校閉校記念誌

海の子

発行日 2021年3月発行

発行者 閉校記念誌編さん委員会

制作 図書印刷株式会社



写真提供：ユニオンエンタープライズ㈱

熱海市立網代小学校閉校記念誌